

深谷市子ども読書活動推進計画 読書活動アンケート結果報告書 (平成27年度)

公立小学校および中学校に通う
児童生徒に対するアンケート

平成28年3月
深谷市立図書館



本文目次

I	公立小学校および中学校に通う児童生徒に対する読書活動アンケートの結果	1
1	アンケート実施の概要	1
2	アンケート協力機関	1
3	アンケート結果の表示方法について	1
4	アンケート結果	4
問1	あなたは、マンガや雑誌以外の本を読むことが好きですか？	4
問2	あなたは9月（8月）中に、本を何冊読みましたか？	8
問3	問2で『0冊』だったのはなぜですか？（複数回答）	12
問4	あなたの本の探し方を教えてください（複数回答）	16
問5	読みたいと思った本はどうやって読みますか？（複数回答）	20
問6	小学校に入る前に、誰かから本を読んでもらったことがありますか？	24
問7	問6で「はい」に○を付けた方にうかがいます。本を読んでもらったのは誰ですか？（複数回答）	28
問8	市の図書館へ行きますか？	32
問9	問8で「よく行く」「たまに行く」と答えた方にうかがいます。図書館へはどんな時に行きますか？（複数回答）	36
問10	問9で「行かない・行ったことがない」と答えた方に伺います。それはなぜですか？（複数回答）	40
II	アンケート結果から見える子どもたちと読書の関係	44

図版・グラフ目次

図 1	平成 27 年度の回答様相（模式図）	2
図 2	平成 24 年度以降の回答様相（模式図）	2
図 3	平成 27 年度アンケート調査用紙	3
図 4	「あなたは、マンガや雑誌以外の本を読むことが好きですか？」に対する平成 27 年度の回答様相	4
図 5	「あなたは、マンガや雑誌以外の本を読むことが好きですか？」に対する小学校 2 年生の回答様相	5
図 6	「あなたは、マンガや雑誌以外の本を読むことが好きですか？」に対する小学校 5 年生の回答様相	6
図 7	「あなたは、マンガや雑誌以外の本を読むことが好きですか？」に対する中学校 2 年生の回答様相	7
図 8	「あなたは 9 月（8 月）中に、本を何冊読みましたか？」に対する平成 27 年度の回答様相	8
図 9	「あなたは 9 月（8 月）中に、本を何冊読みましたか？」に対する小学校 2 年生の回答様相	9
図 10	「あなたは 9 月（8 月）中に、本を何冊読みましたか？」に対する小学校 5 年生の回答様相	10
図 11	「あなたは 9 月（8 月）中に、本を何冊読みましたか？」に対する小学校 5 年生の回答様相	11
図 12	「問 2 で『0 冊』だったのはなぜですか？（複数回答）」に対する平成 27 年度の回答様相	12
図 13	「問 2 で『0 冊』だったのはなぜですか？（複数回答）」に対する小学校 2 年生の回答様相	13
図 14	「問 2 で『0 冊』だったのはなぜですか？（複数回答）」に対する小学校 5 年生の回答様相	14
図 15	「問 2 で『0 冊』だったのはなぜですか？（複数回答）」に対する中学校 2 年生の回答様相	15
図 16	「あなたの本の探し方を教えてください（複数回答）」に対する平成 27 年度の回答様相	16
図 17	「あなたの本の探し方を教えてください（複数回答）」に対する小学校 2 年生の回答様相	17
図 18	「あなたの本の探し方を教えてください（複数回答）」に対する小学校 5 年生の回答様相	18
図 19	「あなたの本の探し方を教えてください（複数回答）」に対する中学校 2 年生の回答様相	19
図 20	「読みたいと思った本はどうやって読みますか（複数回答）」に対する平成 27 年度の回答様相	20
図 21	「読みたいと思った本はどうやって読みますか（複数回答）」に対する小学校 2 年生の回答様相	21
図 22	「読みたいと思った本はどうやって読みますか（複数回答）」に対する小学校 5 年生の回答様相	22
図 23	「読みたいと思った本はどうやって読みますか（複数回答）」に対する中学校 2 年生の回答様相	23
図 24	「小学校に入る前に、誰かから本を読んでもらったことがありますか？」に対する平成 27 年度の回答様相	24

図 25	「小学校に入る前に、誰かから本を読んでもらったことがありますか？」に対する小学校 2 年生の回答様相	25
図 26	「小学校に入る前に、誰かから本を読んでもらったことがありますか？」に対する小学校 5 年生の回答様相	26
図 27	「小学校に入る前に、誰かから本を読んでもらったことがありますか？」に対する中学校 2 年生の回答様相	27
図 28	「本を読んでもらったのは誰ですか？（複数回答）」に対する平成 27 年度の回答様相	28
図 29	「本を読んでもらったのは誰ですか？（複数回答）」に対する小学校 2 年生の回答様相	29
図 30	「本を読んでもらったのは誰ですか？（複数回答）」に対する小学校 5 年生の回答様相	30
図 31	「本を読んでもらったのは誰ですか？（複数回答）」に対する中学校 2 年生の回答様相	31
図 32	「市の図書館へ行きますか？」に対する平成 27 年度の回答様相	32
図 33	「市の図書館へ行きますか？」に対する小学校 2 年生の回答様相	32
図 34	「市の図書館へ行きますか？」に対する小学校 5 年生の回答様相	34
図 35	「市の図書館へ行きますか？」に対する中学校 2 年生の回答様相	35
図 36	「図書館へはどんな時に行きますか？（複数回答）」に対する平成 27 年度の回答様相	36
図 37	「図書館へはどんな時に行きますか？（複数回答）」に対する小学校 2 年生の回答様相	37
図 38	「図書館へはどんな時に行きますか？（複数回答）」に対する小学校 5 年生の回答様相	38
図 39	「図書館へはどんな時に行きますか？（複数回答）」に対する中学校 2 年生の回答様相	39
図 40	「『行かない・行ったことがない』のはなぜですか（複数回答）」に対する平成 27 年度の回答様相	40
図 41	「『行かない・行ったことがない』のはなぜですか（複数回答）」に対する小学校 2 年生の回答様相	41
図 42	「『行かない・行ったことがない』のはなぜですか（複数回答）」に対する小学校 5 年生の回答様相	42
図 43	「『行かない・行ったことがない』のはなぜですか（複数回答）」に対する中学校 2 年生の回答様相	43

I 公立小学校および中学校に通う児童生徒に対する読書活動アンケートの結果

1 アンケート実施の概要

「深谷市子ども読書活動推進計画」推進のため、市内公立小学校および中学校に通う児童生徒を対象に、読書活動に対するアンケート調査を実施した。調査対象期間は平成 26 年 10 月～11 月（各校における調査票回収期間を含む）である。

活動調査の対象期間は 9 月とした。ただし、調査対象校の一部について、学校側の都合により 8 月を対象とした調査の実施となっている。

2 アンケート協力機関

今回のアンケート調査については、下記機関を通じ、それぞれに通学する児童生徒より回答を得た。回答総数は小学校 2 年生が 178 人、小学校 5 年生が 204 人、中学校 2 年生が 199 人である。

○小学校（2 年生・5 年生）：桜ヶ丘小学校、常盤小学校、豊里小学校、岡部小学校、川本北小学校、花園小学校（以上 6 校）

○中学校（2 年生）：深谷中学校、豊里中学校、上柴中学校、岡部中学校、川本中学校、花園中学校（以上 6 校）

なお、今回使用した調査票は次頁掲載のとおりである。

3 アンケート結果の表示方法について

比較のため、平成 24 年度以降のアンケート結果と合わせて掲載するものとした。

表示方法として円グラフを採用している。いずれも母数である調査・回答件数が異なるため、実数比較としては意味を持たないものの、回答傾向の相対的変遷を知る上では有効であるとの考えによるものである。

計数に当たり無回答件数は除外、有効回答件数の総数を「回答総数」として各グラフ右上に記載した。そのため設問内容によっては「回答総数」が回答者の実際を下回る場合がある。またこれとは逆に、複数回答を認めている設問の場合には、回答件数が回答者の実数を上回る場合がある。

数値の変遷を見やすくするため、今回表示するデータ値は小数点以下を四捨五入している。同時掲載の過去データの数値についても同様の措置を執ったが、これまで公表してきたアンケート結果において表示した数値に訂正が生じたものではないことをあらかじめお断りしておく。ただし、これによって集計値が 1%未満のものについては「0%」表示となることから、パーセンテージの合計値には合算されていないが、「1%未満」の表示を併記するものとする。そのためパーセンテージの合計値が 100%を超えてしまう場合がある。



図1 平成27年度の回答様相(模式図)

グラフ配置については、平成27年度様相の場合には「左(小学校2年生)→中(小学校5年生)→右(中学校2年生)」の順で配置する(図1)。

また平成24年度以降の変遷を一覧する場合には、左下を起点、左上を終点とする配置をとり、平成27年度様相を終点(到達点)として、「左上(平成27年度)←右上(平成26年度)←右下(平成25年度)←左下(平成24年度)」の順で配置する(図2)。

グラフ中の選択肢表記については、表示空間に制約があること、判読可能なサイズを保持するため、アンケート内に設定した選択肢との同定が可能な程度まで記述を省略・変更している。

本文中におけるグラフ項目の表記については、平成27年度アンケートの選択肢を用いた「キーワード(グラフの表示色)」を用いる。キーワードは初出時のみグラフ中の同じものを用い、以降は同定可能な程度まで省略・変更する。本文中の表現に沿ったものを用いるため、グラフ内の表記とは一致しない場合がある。また平成24年度～26年度の同様の設問に対する選択肢と文言が異なったものについては、設問の意図を変更しない限りにおいて、平成27年度の文言に統一して表記した。

報文中のパーセンテージは「○%(小2)」、「○%(H24)」など、数値の後に学年または調査年度を省略して表記した。

なお、設問および選択肢の内容変更により、回答の比較ができない部分については、特に記述していない。

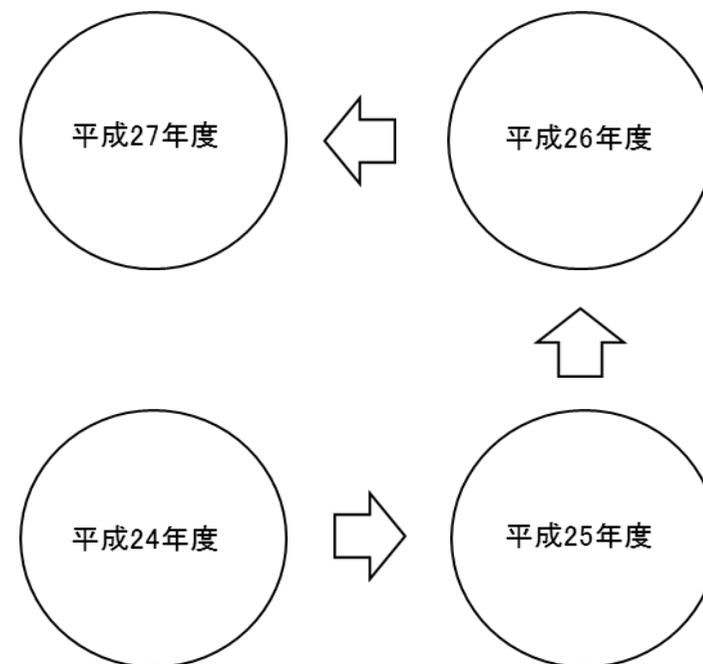


図2 平成24年度以降の回答様相(模式図)

【読書に関するアンケート調査】深谷市立図書館

あなたの読書についてお聞きします。あなたの答えに一番近いものに○をつけてください。

問1 あなたは、マンガや雑誌ではない本を読むことが好きですか？ひとつお答えください。

- 1 好き 2 どちらかといえば好き 3 どちらかといえば嫌い 4 嫌い

問2 あなたは、9月中に本を何冊読みましたか？ひとつお答えください。

- 1 0冊 一問3へ進んでください 2 1・2冊 一問4へ進んでください
3 3～5冊 一問4へ進んでください 4 6～9冊 一問4へ進んでください
5 10冊以上 一問4へ進んでください

問3 問2で「0冊」と答えた方だけにお聞きします。それはなぜですか？

いくつ答えても良いです。「6その他」に○をつけた方は、その理由も教えてください。

- 1 塾や習い事、スポーツの練習で忙しかった 2 学校のクラブ活動で忙しかった
3 ゲーム機・パソコン・スマートフォンなどで遊ぶ方が楽しい 4 テレビをみる方が楽しい
5 友だちと遊ぶ方が楽しい 6 その他（ ）

問4 あなたの、本の見つけ方を教えてください。いくつ答えても良いです。

「7その他」に○をつけた方は、その方法も教えてください。

- 1 家族に手伝ってもらう 2 学校の先生に手伝ってもらう 3 友だちに手伝ってもらう
4 市の図書館の人に手伝ってもらう 5 雑誌や新聞から見つける 6 自分だけで見つける
7 その他（ ）

問5 あなたは、読みたい本をどのようにして読みますか？いくつ答えても良いです。

「5その他」に○をつけた方は、その方法も教えてください。

- 1 買う・買ってもらう 2 学校で借りる 3 図書館で借りる 4 友だちから借りる
5 その他（ ）



【質問は裏へ続きます】



問6 小学校へ入る前に、誰かに本を読んでもらったことがありますか？ひとつお答えください。

- 1 はい 一問7へ進んでください 2 いいえ 一問8へ進んでください

問7 問6で「はい」に○をつけた方だけにお聞きします。本を読んでもらったのは誰ですか？

いくつ答えても良いです。「8その他」に○をつけた方は、その人について教えてください。

- 1 おかあさん 2 おとうさん 3 おねえさん・おにいさん 4 おばあさん 5 おじいさん
6 保育園や幼稚園の先生 7 市の図書館の人(おはなし会に参加した) 8 その他（ ）

問8 市の図書館に行きますか？ひとつお答えください。

- 1 よく行く 一問9へ進んでください 2 たまに行く 一問9へ進んでください
3 行かない・行ったことがない 一問10へ進んでください

問9 問8で「よく行く」「たまに行く」に○をつけた方だけにお聞きします。図書館には何をしに行きますか？いくつ答えても良いです。「5その他」に○をつけた方は、内容を教えてください。

- 1 本を探したり、読んだりするため 2 本を借りるため
3 借題や夏休みの課題などの勉強をするため 4 図書館のおはなし会などに参加するため
5 その他（ ）

問10 問8で「行かない・行ったことがない」に○をつけた方にお聞きします。それはなぜですか？

いくつ答えても良いです。「9その他」に○をつけた方は、その理由も教えてください。

- 1 図書館の場所がわからない 2 図書館が家から遠くて行けない 3 図書館へ行く時間が無い
4 図書館の使い方がわからない 5 図書館には読みたい本が無い
6 本は買ったり、買ってもらったものを読む 7 本は学校で借りて読む
8 本は友だちから借りて読む 9 その他（ ）

【アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました】

図3 平成27年度アンケート調査用紙(左:表 右:裏)

4 アンケート結果

問1 あなたは、マンガや雑誌以外の本を読むことが好きですか？

(1) 平成27年度の回答様相

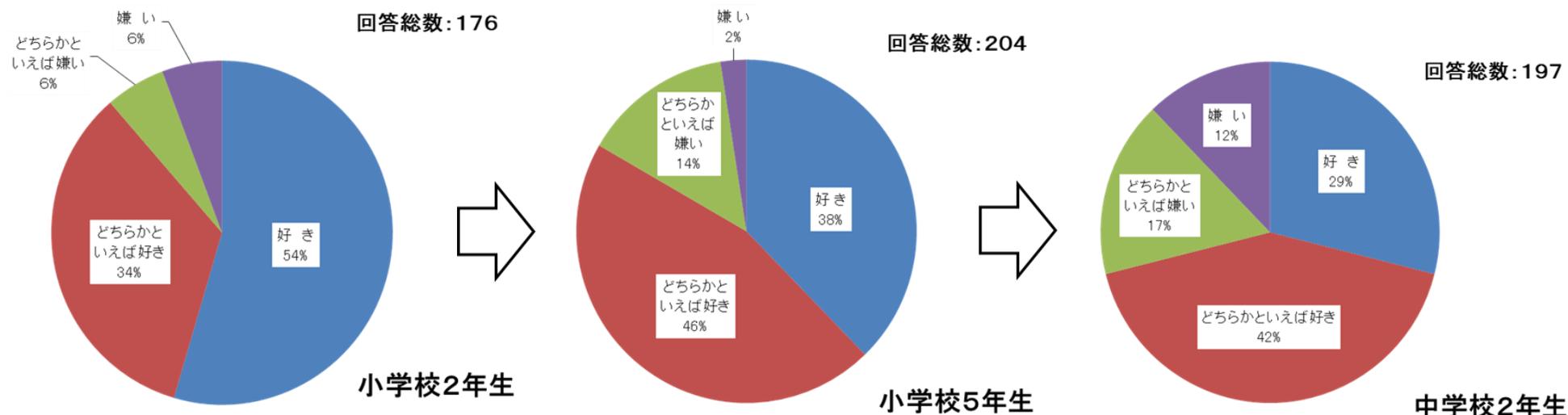


図4 「あなたは、マンガや雑誌以外の本を読むことが好きですか？」に対する平成27年度の回答様相

「好き(青)」は54%(小2)、38%(小5)、29%(中2)と学年とともに下降。小学校2年生には50%を超えていたが、中学校2年生では30%を切った。

「どちらかといえば好き(赤)」は34%(小2)、46%(小5)、42%(中2)と、30%台であったものが小学校5年生に40%を突破する。中学校2年生には下降するものの40%台を保つ。

「どちらかといえば嫌い(緑)」は6%(小2)、14%(小5)、17%(中2)と、学年とともに上昇、小学校5年生で10%を突破し、中学校2年生には20%に迫る。

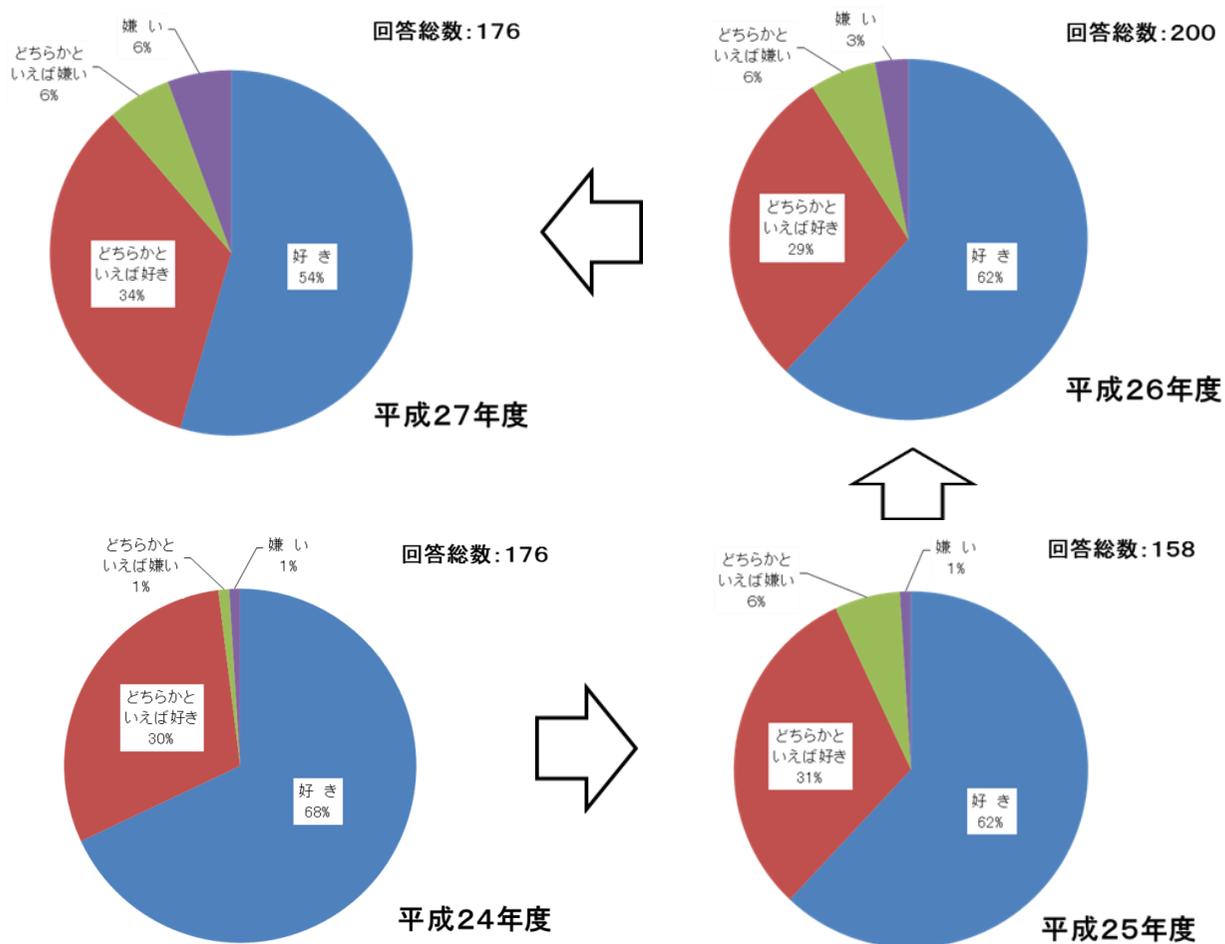
「嫌い(紫)」は6%(小2)、2%(小5)、12%(中2)と、小学校時代は下降するが中学校2年生は上昇、10%を突破し最大値を示す。

回答の「好き」から「どちらかといえば好き」への移行、「どちらかといえば嫌い」から「嫌い」への移行と同時に、全体的には「好き」の下降、「嫌い」の上昇の傾向が認められる。

(2) 平成 24 年度からの回答様相の変遷

次に各学年における平成 27 年度の様相を、平成 24 年度からの変遷の観点から見てみたい。以降、平成 27 年の回答様相は全て再掲である。

1) 小学校 2 年生



「好き(青)」は、68% (H24)、62% (H25)、62% (H26)、54% (H27)と、年度とともに下降、平成 26 年度まで 60%台を保っていたが平成 27 年度に 60%を切った。

「どちらかといえば好き(赤)」は、30% (H24)、31% (H25)、29% (H26)、34% (H27)と変動。平成 26 年度のみ 30%を切ったが平成 27 年度に再び上昇、30%を突破し最大値を示す。

「どちらかといえば嫌い(緑)」は、1% (H24)、6% (H25)、6% (H26)、6% (H27)と 10%未満の範囲で変動。平成 25 年度に上昇し、その後は一定を保つ。

「嫌い(紫)」は 1% (H24)、1% (H25)、3% (H26)、6% (H27)と、平成 26 年度に上昇、平成 27 年度に最大値を示す。

回答個々の変動は緩やかであり、明確な傾向を捉えきれものではないが、好嫌それぞれの合計値から観てみると、「好き」、「どちらかといえば好き」には下降の、「どちらかといえば嫌い」「嫌い」には上昇の傾向を観ることができる。

図 5 「あなたは、マンガや雑誌以外の本を読むことが好きですか？」に対する小学校 2 年生の回答様相

2) 小学校5年生

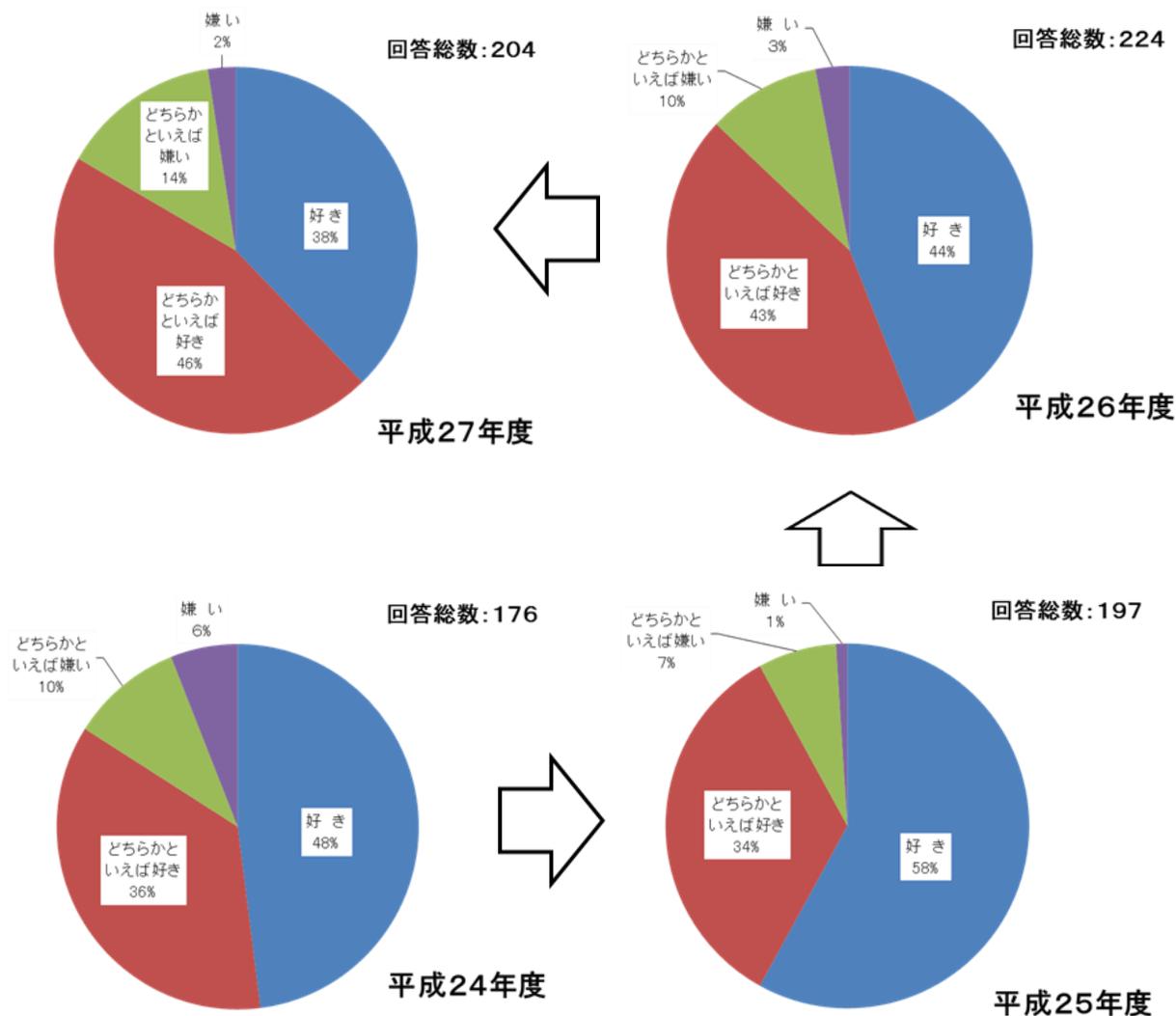


図6 「あなたは、マンガや雑誌以外の本を読むことが好きですか？」に対する小学校5年生の回答様相

「好き(青)」は、48%(H24)、58%(H25)、44%(H26)、38%(H27)。平成25年度に上昇し60%に迫るが、その前後の年度は40%台での変動である。平成27年度には40%を切り、最小値を示す。

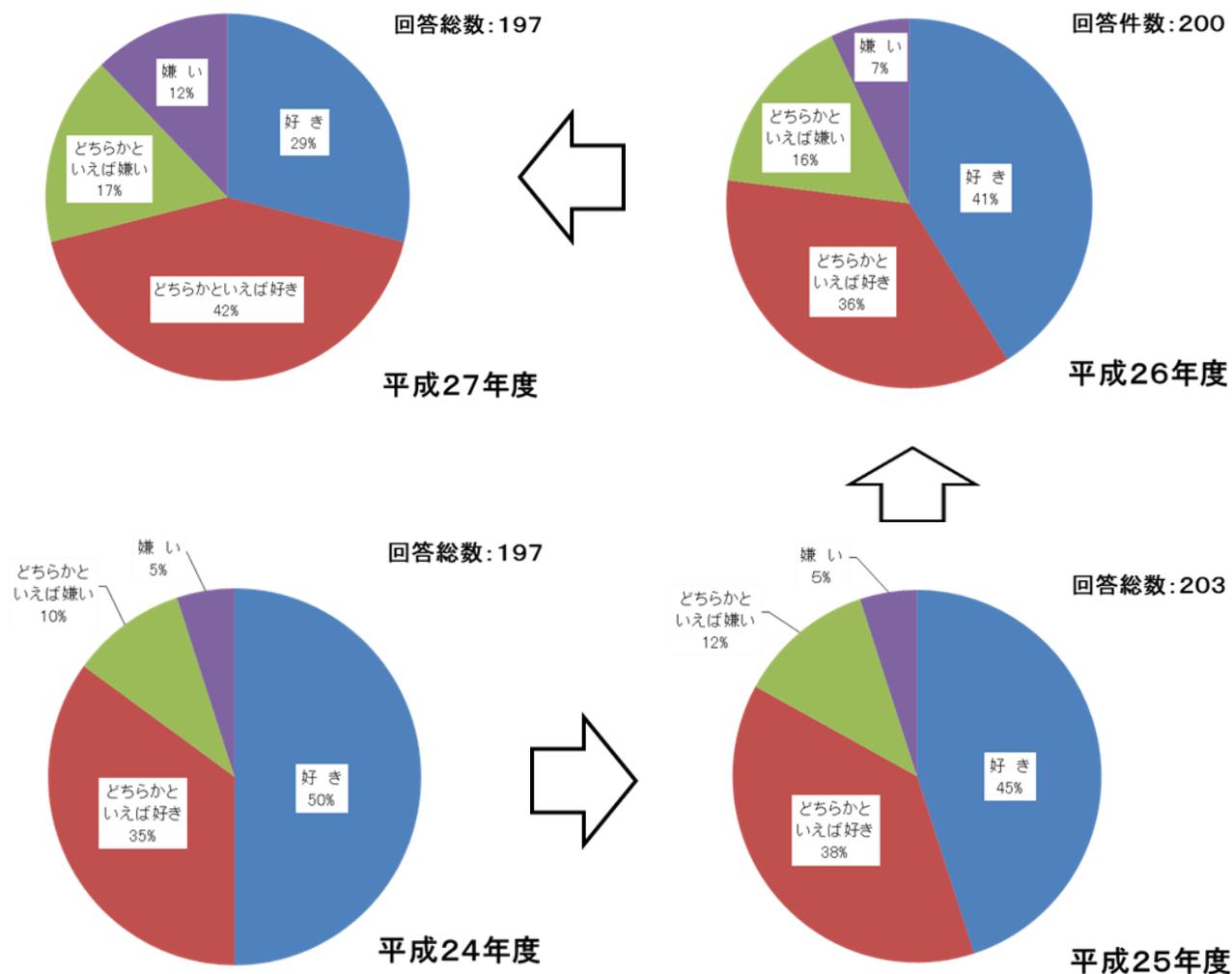
「どちらかといえば好き(赤)」は、36%(H24)、34%(H25)、43%(H26)、46%(H27)と変動。30%台で推移していたものが平成26年度に40%を突破、平成27年度には最大値を示す。

「どちらかといえば嫌い(緑)」は、10%(H24)、7%(H25)、10%(H26)、14%(H27)と、平成25年度のみ10%を切ったものの、その前後の年度は10%台で推移。平成27年度には上昇、最大値を示す。

「嫌い(紫)」は、6%(H24)、1%(H25)、3%(H26)、2%(H27)と、平成25年度に最小値まで下降。以降これよりは上昇するものの、変動幅は1~2%にとどまる。平成27年度は下降する。

「好き」は下降、「どちらかといえば好き」は変動しながらも巨視的には上昇傾向を示す。「どちらかといえば嫌い」にも上昇傾向が認められる。「嫌い」は1%台の変動であり、回答様相全体への影響は小さいと思われる。

3) 中学校2年生



「好き(青)」は、50%(H24)、45%(H25)、41%(H26)、29%(H27)と、年度とともに下降、平成24年度には50%であったものが、平成27年度には30%を切り、最小値を示す。

「どちらかといえば好き(赤)」は、35%(H24)、38%(H25)、36%(H26)、42%(H27)と変動。30%台で推移していたものが平成27年度に40%を突破、最大値を示す。

「どちらかといえば嫌い(緑)」は、10%(H24)、12%(H25)、16%(H26)、17%(H27)と、10%台の範囲ながら年度とともに上昇、平成27年度は20%に迫る。

「嫌い(紫)」は、5%(H24)、5%(H24)、7%(H26)、12%(H27)と、平成26年度に上昇が始まり、平成27年度は10%を突破、最大値を示す。

「好き」は下降、「どちらかといえば好き」は変動しながらも巨視的には上昇傾向を認めることができる。「どちらかといえば嫌い」、「嫌い」にも上昇傾向が認められる。

図7 「あなたは、マンガや雑誌以外の本を読むことが好きですか？」に対する中学校2年生の回答様相

問2 あなたは9月(8月)中に、本を何冊読みましたか？

(1) 平成27年度の回答様相

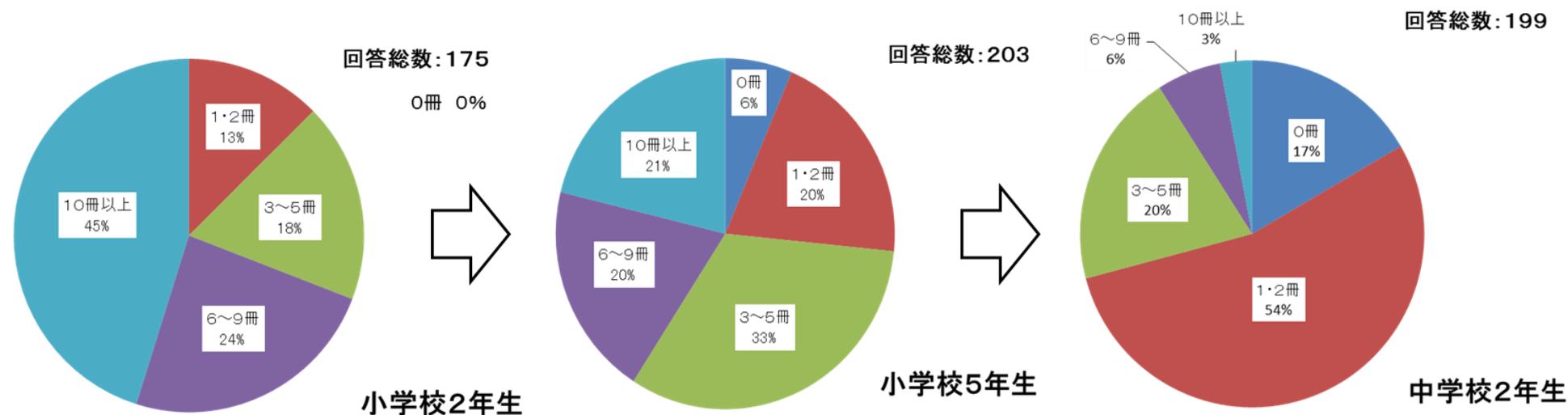


図8 「あなたは9月(8月)中に、本を何冊読みましたか？」に対する平成27年度の回答様相

本調査については、学校側の日程的な都合により、

「0冊(青)」は、0%(小2)、6%(小5)、17%(中2)と、学年とともに上昇、小学校2年生では該当者がなかったものが中学校2年生では20%に迫る。

「1・2冊(赤)」は、13%(小2)、20%(小5)、54%(中2)と、学年とともに上昇、特に中学校2年生の上昇が著しく、50%を突破する。

「3～5冊(緑)」は、18%(小2)、33%(小5)、20%(中2)と、小学校5年生のみ30%台に達したが、他学年は20%前後で推移する。

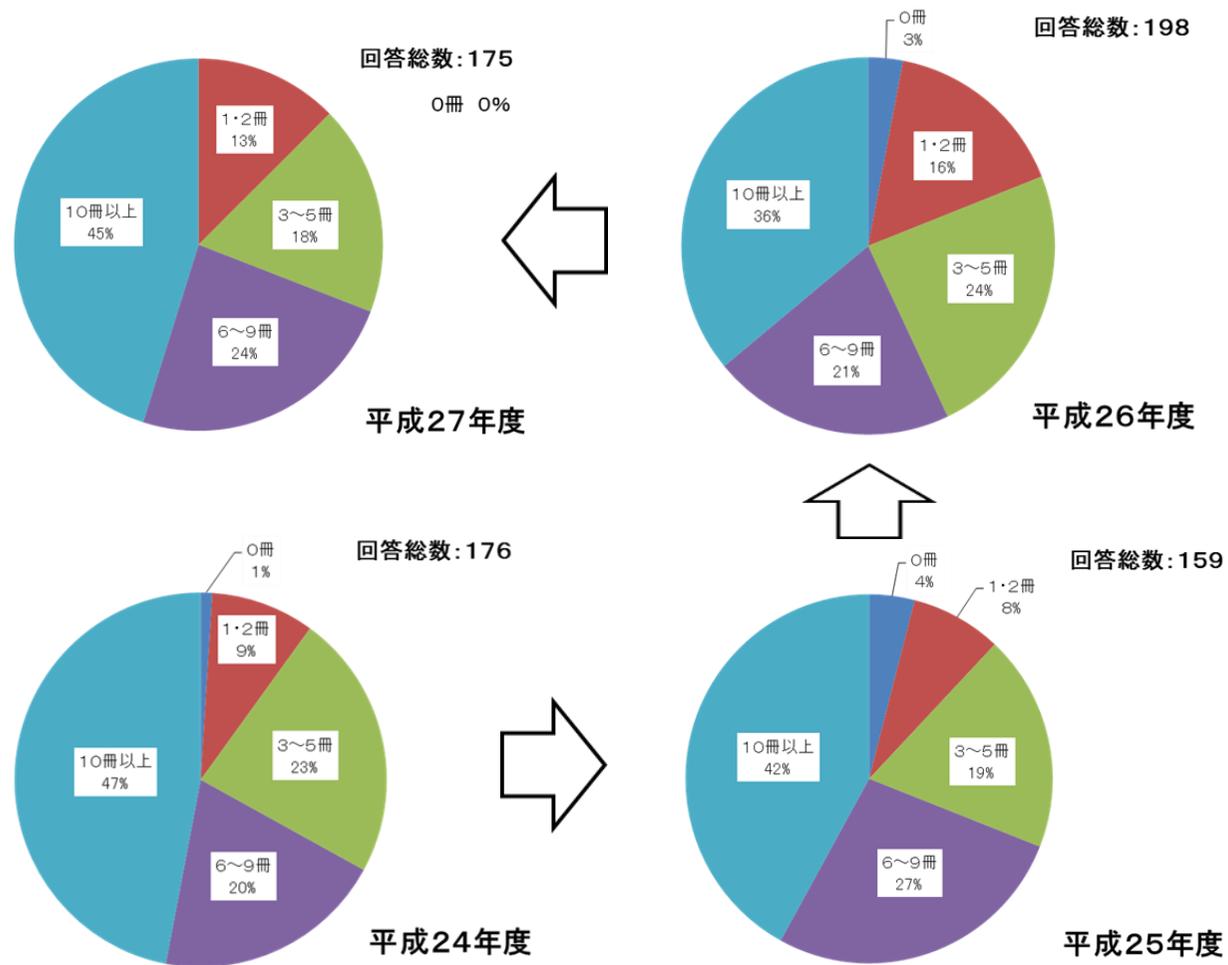
「6～9冊(紫)」は、24%(小2)、20%(小5)、6%(中2)と、学年とともに下降、小学校時代は20%台前半で推移していた数値が、中学校2年生に大きく下降、10%を切った。

「10冊以上(青)」は、45%(小2)、21%(小5)、3%(中2)と、学年とともに下降、小学校2年生では50%近かった数値が小学校5年生ではほぼ1/2に、中学校2年生では小学校5年生の1/7に下降し、10%を切った。

読書冊数の顕著な減少が認められ、小学校から中学校への進学とともに、その傾向に拍車がかかる様相も看取できる。

(2) 平成 24 年度からの回答様相の変遷

1) 小学校 2 年生



「0冊(青)」は、1% (H24)、4% (H25)、3% (H26)、0% (H27)と5%未満の範囲で変動。平成25年度を最大値として以降は下降、平成27年度は消滅する。

「1・2冊(赤)」は、9% (H24)、8% (H25)、16% (H26)、13% (H27)と平成26年度まで上昇、10%を突破する。平成27年度は下降するが10%台を保つ。

「3～5冊(緑)」は、23% (H24)、19% (H25)、24% (H26)、18% (H27)と、20%を挟んで変動。平成27年度は再び下降、20%を切り最小値を示す。

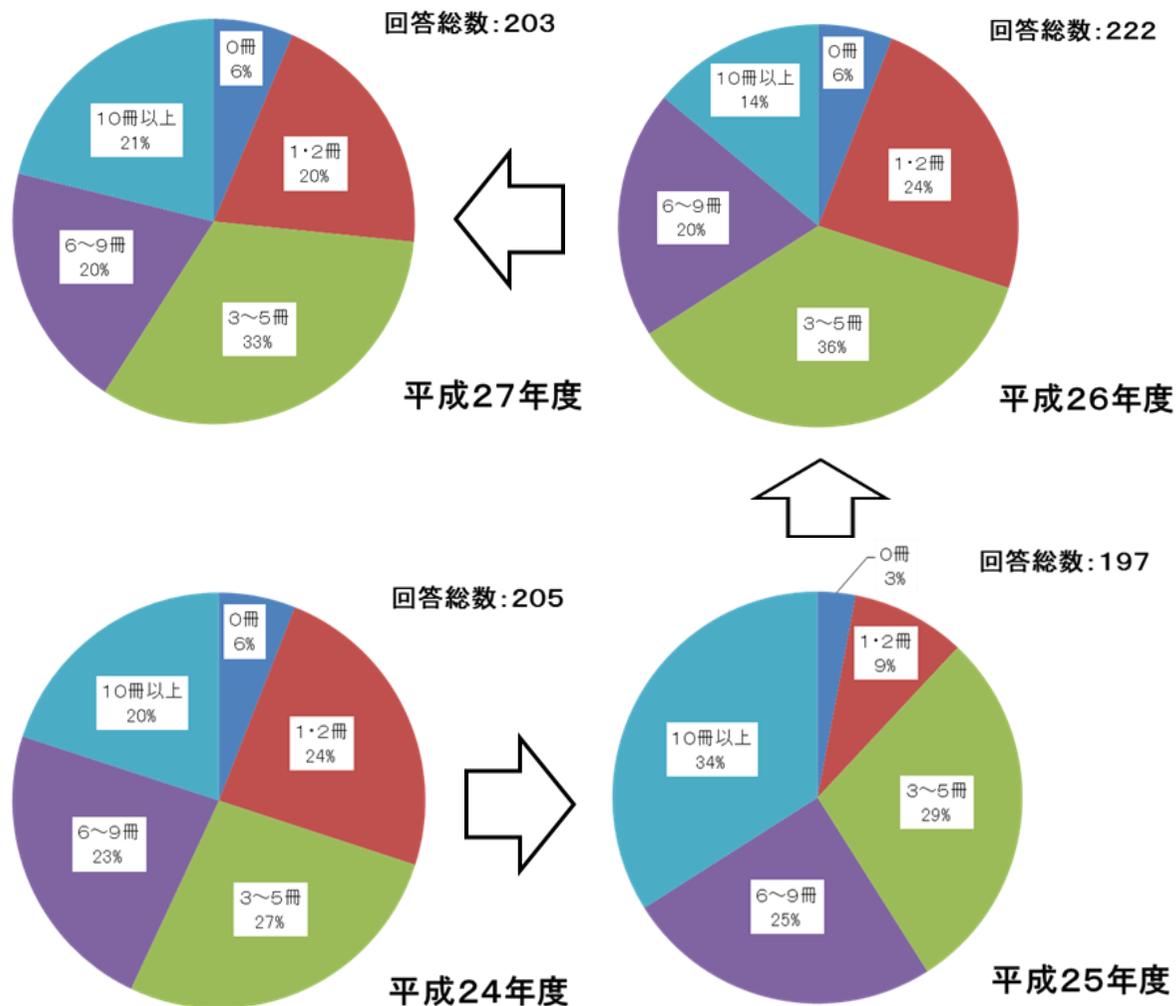
「6～9冊(紫)」は、20% (H24)、27% (H25)、21% (H26)、24% (H27)と20%台の範囲で変動。平成27年度は再上昇するが平成25年度には及ばない。

「10冊以上(青緑)」は、47% (H24)、42% (H25)、36% (H26)、45% (H27)と、平成24年度を最大値として変動。平成26年度のみ40%を切ったものの、他年度は40%台で推移。平成27年度に上昇するが平成24年度の様相には及ばない。

平成27年度「0冊」の回答が消滅した。これまでの調査を通じ初の事例である。「1・2冊」は変動しつつ巨視的には上昇傾向を、「3～5冊」は巨視的には下降傾向を示している。その他の回答についても個々に変動を見せるものの、全ての調査年度を俯瞰すると、回答の相対的様相はほぼ同様である。

図9 「あなたは9月(8月)中に、本を何冊読みましたか？」に対する小学校2年生の回答様相

2) 小学校5年生



「0冊(青)」は、6%(H24)、3%(H25)、6%(H26)、6%(H27)と、平成25年度のみ前年度の1/2に下降したものの、他年度は一定である。

「1・2冊(赤)」は、24%(H24)、9%(H25)、24%(H26)、20%(H27)と、平成25年度のみ10%を切るが前後の年度は24%で一定。平成27年度に下降するが20%台を保つ。

「3~5冊(緑)」は、27%(H24)、29%(H25)、36%(H26)、33%(H27)と、平成26年度に30%を突破し最大値を示す。平成27年度は下降するが30%台を保つ。

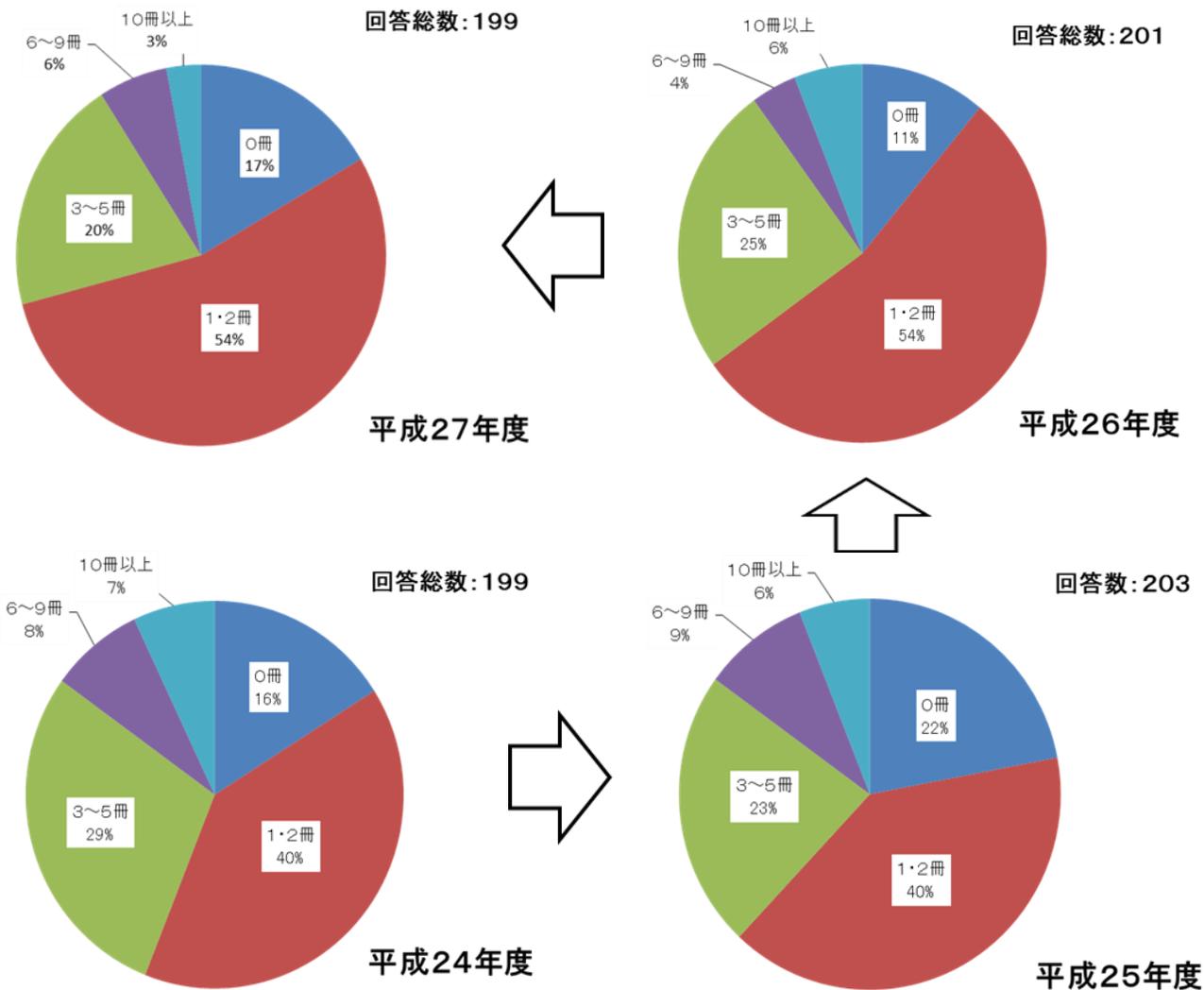
「6~9冊(紫)」は、23%(H24)、25%(H25)、20%(H26)、20%(H27)と、20%前半の範囲で変動。平成25年度に最大値を、平成26年度に最小値を示して以降は一定である。

「10冊以上(青緑)」は、20%(H24)、34%(H25)、14%(H26)、21%(H27)と、平成25年度のみ30%を突破、最大値を示したが、平成26年度は下降、20%を切って最小値を示す。平成27年度は再び上昇し、20%台に復した。

平成25年度の様相のみ他年度のそれと大きく異なるため、時系列的な比較をしていく上では判断に難しい面があるものの、平成26年度に全体的な減少をみせた読書冊数が、平成27年度には平成24年度の様相に迫る状態まで回復していることがわかる。

図10「あなたは9月(8月)中に、本を何冊読みましたか？」に対する小学校5年生の回答様相

3) 中学校2年生



「0冊(青)」は、16%(H24)、22%(H25)、11%(H26)、17%(H27)と、平成25年度に20%を突破し最大値を示したが、平成26年度には10%台に下降、最小値を示すなど大きく変動する。平成27年度は再び上昇、20%に迫る数値を示した。

「1・2冊(赤)」は、40%(H24)、40%(H25)、54%(H26)、54%(H27)と、それまで40%台であった数値が平成26年度に50%を突破し、その後一定する。

「3～5冊(緑)」は、29%(H24)、25%(H25)、25%(H26)、20%(H27)と、20%台の範囲一杯で下降する。

「6～9冊(紫)」は、8%(H24)、9%(H25)、4%(H26)、6%(H27)と、10%未満の範囲で変動。平成26年度には前年度の1/2以下まで下降し、平成27年度には上昇に転じたが、平成24年度の様相を回復するまでには至っていない。

「10冊以上(青緑)」は、7%(H24)、6%(H25)、6%(H26)、3%(H27)と、10%未満の範囲において下降する。

平成26年度から同27年度にかけて「1・2冊」の占める割合が10%以上上昇する一方、「3～5冊」、「10冊以上」には下降の傾向が表れている。

図11 「あなたは9月(8月)中に、本を何冊読みましたか？」に対する中学校2年生の回答様相

問3 問2で「0冊」と答えた方だけにお聞きします。0冊だったのはなぜですか？（複数回答）

(1) 平成27年度の回答様相

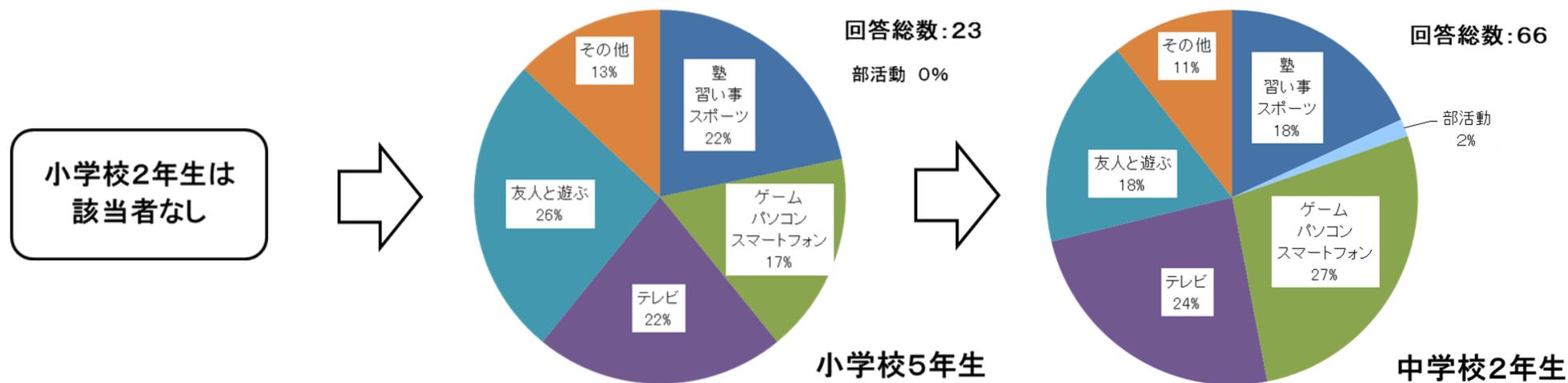


図12 「問2で『0冊』だったのはなぜですか？（複数回答）」に対する平成27年度の回答様相

小学校2年生には該当者がいない。

「塾・習い事・スポーツ(青)」は22%(小5)、18%(中2)と下降し、中学校2年生では20%を切るが、20%前後での変動にとどまっている。

「部活動(赤)」は0%(小5)、2%(中2)と、中学校2年生の段階で初めて回答が現れる。

「ゲーム・パソコン・スマートフォン(緑)」は17%(小5)、27%(中2)と、10%幅で大きく上昇する。

「テレビ(紫)」は22%(小5)、24%(中2)と上昇するが、変動は小幅で20%台前半の範囲にとどまっている。

「友人と遊ぶ(青緑)」は26%(小5)、18%(中2)と下降、30%に迫っていた値が10%近く下降し、20%を切った。

全回答の比率構成をみると、「塾・習い事・スポーツ」、「友人と遊ぶ」が下降するが、特に「友人」の下降が目立つ。その一方、「ゲーム・パソコン」、「テレビ」が上昇するが、特に「ゲーム・パソコン」の上昇が著しい。中学校2年生の段階で「部活動」が回答として現れるものの、全体的な様相に与える影響は殆どない状態である。

(2) 平成24年度からの回答様相の変遷

1) 小学校2年生

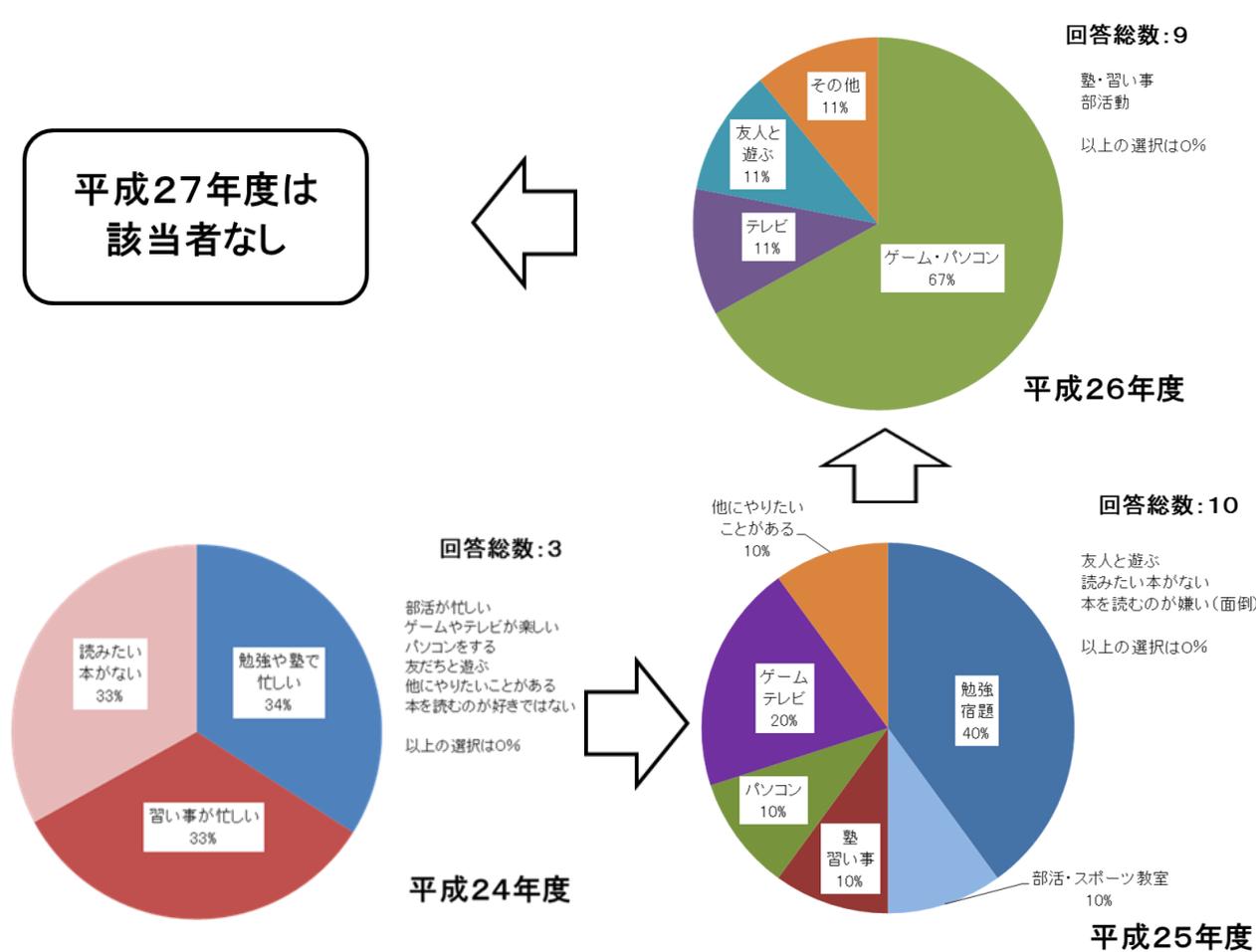


図13 「問2で『0冊』だったのはなぜですか？(複数回答)」に対する小学校2年生の回答様相

本問は平成24年度以降、選択肢の見直しを繰り返しており、単純に回答様相の変遷をたどることが難しい。

しかし今回の掲載に当たっては、回答内容を再確認、近似する内容の回答は選択肢の順番を平成26年度の際の選択肢の順番に直し、さらにグラフエリアには同色または同系色を用いるなど、視覚的な統一感に配慮した。

記載は平成26年度の結果報告書を踏襲したが、表現・表記の錯誤を訂正したため、本掲載図が優先するものとしてご覧いただきたい。なお各グラフには回答の有無に関わらず、全ての選択肢を表記した。

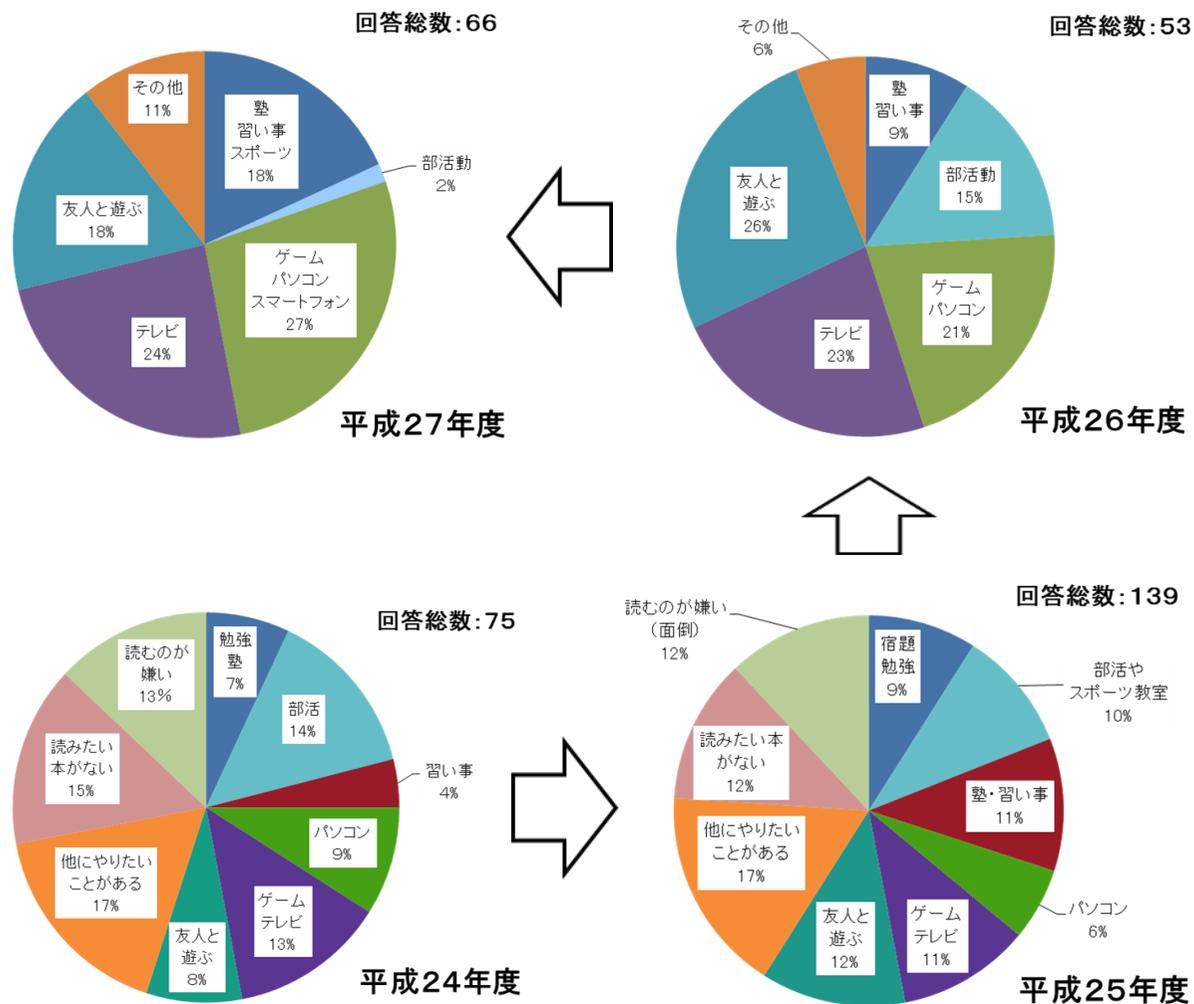
小学校2年生の段階では平成27年度は該当者がいない。これまでの調査では初の事例である。「勉強、塾、スポーツ活動、習い事(青+水色+赤)」の割合は67%(H24)、60%(H25)、0%(H26)と、平成25年度までは60%台を保っていたが、平成26年度には回答自体が消滅した。

「ゲーム、パソコン、テレビ(緑+紫)」の割合は0%(H24)、30%(H25)、78%(H26)と、回答が存在しない状態から全回答の80%に迫る状態にまで急上昇する。

「友人と遊ぶ(青緑)」も0%(H25)、11%(H26)と回答が存在しない状態から10%台への上昇を見せる。

該当者が少ない設問のため傾向分析が難しいものの、「0冊」の理由が、学業・スポーツ分野から、娯楽・交友分野に大きく移行している点は大きな変化である。

3) 中学校2年生



「塾、スポーツ活動、習い事(青+水色+赤)」は25%(H24)、30%(H25)、24%(H26)、20%(H27)と、平成25年度に30%に達したが、他年度は20%台前半で変動。平成27年度は下降、20%を保ったものの、最小値を示す。

「ゲーム、パソコン、テレビ(緑+紫)」は22%(H24)、17%(H25)、44%(H26)、51%(H27)。平成25年度のみ20%を切ったものの、平成26年度には再び上昇し40%を突破、さらに平成27年度には50%を突破し、最大値を示す。

「友人と遊ぶ(青緑)」は8%(H24)、12%(H25)、26%(H26)、18%(H27)と平成26年度まで上昇し、20%台後半に達する。平成27年度は下降し20%を切ったが、平成25年度以前よりも高い数値を保っている。

総じて娯楽が全回答の過半を占め、交友が学業・スポーツを抑えている様相を見せる。娯楽・交友が優先する傾向は小学校校時代から一貫する傾向である。

図15 「問2で『0冊』だったのはなぜですか？(複数回答)」に対する中学校2年生の回答様相

問4 あなたの本の探し方を教えてください（複数回答）

（1）平成27年度の回答様相

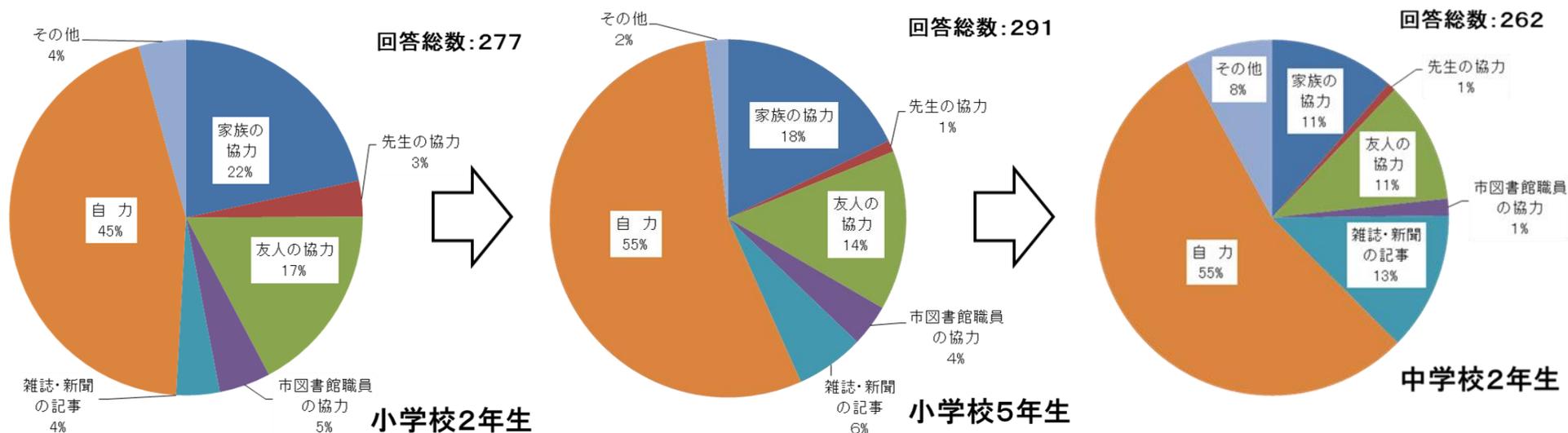


図16 「あなたの本の探し方を教えてください（複数回答）」に対する平成27年度の回答様相

「家族の協力(青)」は、22%(小2)、18%(小5)、11%(中2)と学年とともに下降、20%台から10%台に下降する。

「先生の協力(赤)」は、3%(小2)、1%(小5)、1%(中2)、小学校5年生に1%に下降、その後は変化しない。

「友人の協力(緑)」は、17%(小2)、14%(小5)、11%(中2)と学年とともに下降する。

「市図書館職員の協力(紫)」は、5%(小2)、4%(小5)、1%(中2)と学年とともに下降する。

「雑誌・新聞の記事(青緑)」は、4%(小2)、6%(小5)、13%(中2)と学年とともに上昇、中学校2年生で10%を突破する。

「自力(橙)」は、45%(小2)、55%(小5)、55%(中2)と、小学校5年生で55%に達し、以降一定する。

小学校2年生で50%に近く、それ以上の学年では50%以上が自力を選択。雑誌・新聞など、独力で行使できる方策の回答も上昇する。第三者の協力は全体的に下降傾向にあるものの、家族や友人の協力については中学校2年生の段階でも10%台を維持している点に留意したい。

(2) 平成 24 年度からの回答様相の変遷

1) 小学校 2 年生

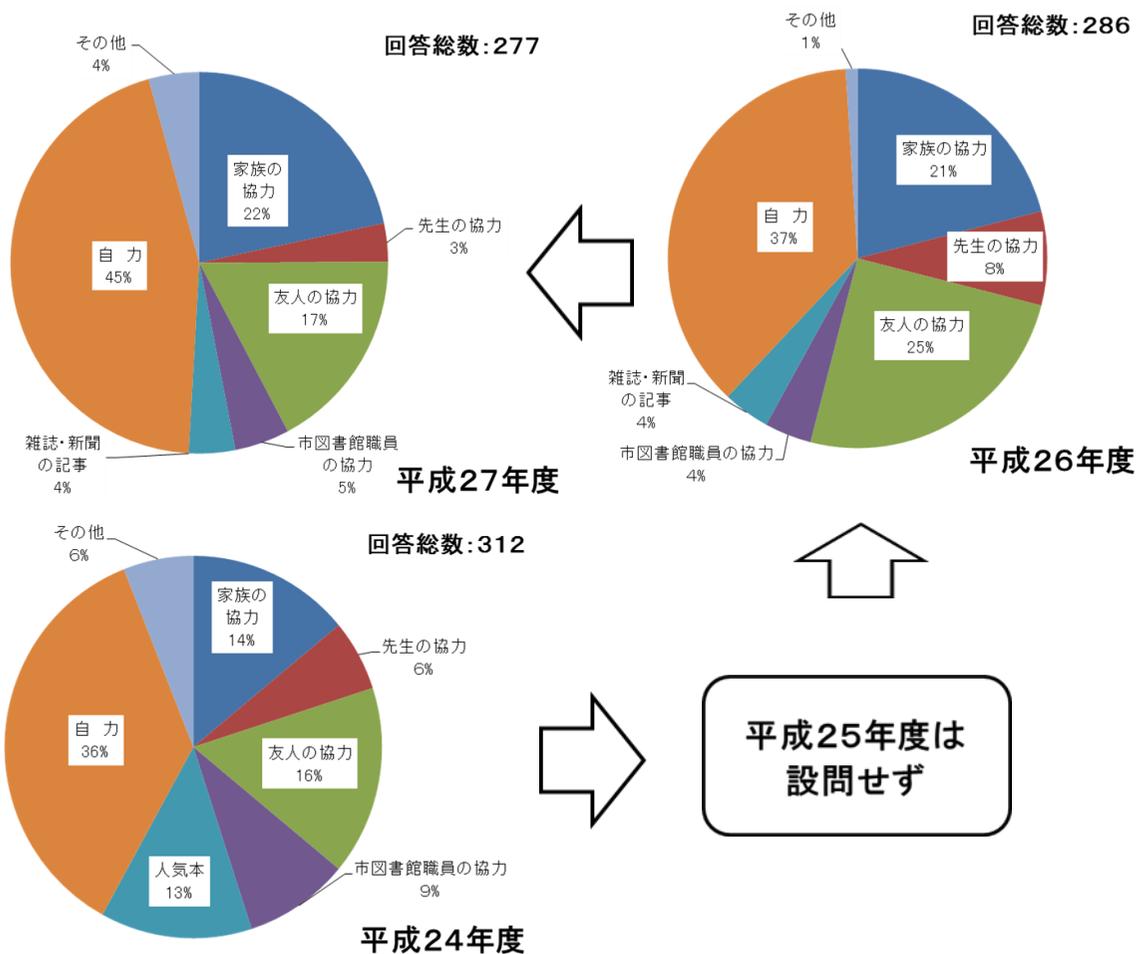


図 17 「あなたの本の探し方を教えてください（複数回答）」に対する小学校 2 年生の回答様相

平成 25 年度調査では本問を設けていない。

「家族の協力(青)」は 14%(H24)、21%(H26)、22%(H27)と、年度とともに上昇、平成 26 年度に 20%を突破する。

「先生の協力(赤)」は 6%(H24)、8%(H26)、3%(H27)と、10%未満の範囲で変動。平成 27 年度は下降し、最小値を示す。

「友人の協力(緑)」は 16%(H24)、25%(H26)、17%(H27)と、平成 26 年度に 20%を突破したが、他年度は 16~17%で推移する。

「市図書館職員の協力(紫)」は 9%(H24)、4%(H26)、5%(H27)と、10%未満の範囲で変動。平成 25 年度には前年度の 1/2 以下に下降、平成 27 年度は上昇したがその差は 1%にとどまる。

「雑誌・新聞の記事(青緑)」は、13%(H24)、4%(H26)、4%(H27)と、平成 26 年度に 10%近く下降、以降は一定である。

「自力(橙)」は、36%(H24)、37%(H26)、45%(H27)と、年度とともに上昇、平成 27 年度には 40%を突破する。

「その他(空)」は 6%(H24)、1%(H26)、4%(H27)と 10%未満の範囲で変動。平成 26 年度に下降最小値 1%を記録する。平成 27 年度に再び上昇するが平成 24 年度当時の様相には及ばない。

自力の回答が 50%に迫り、小学校 2 年生の時点で自分の意思で探そうとする姿勢が強まっていることがわかる。

しかしその一方、家族を除く他者に協力を求める行為については軒並み下降し、家族の範囲を超えた第三者に協力を求める傾向が弱まっていることも指摘できる。

2) 小学校5年生

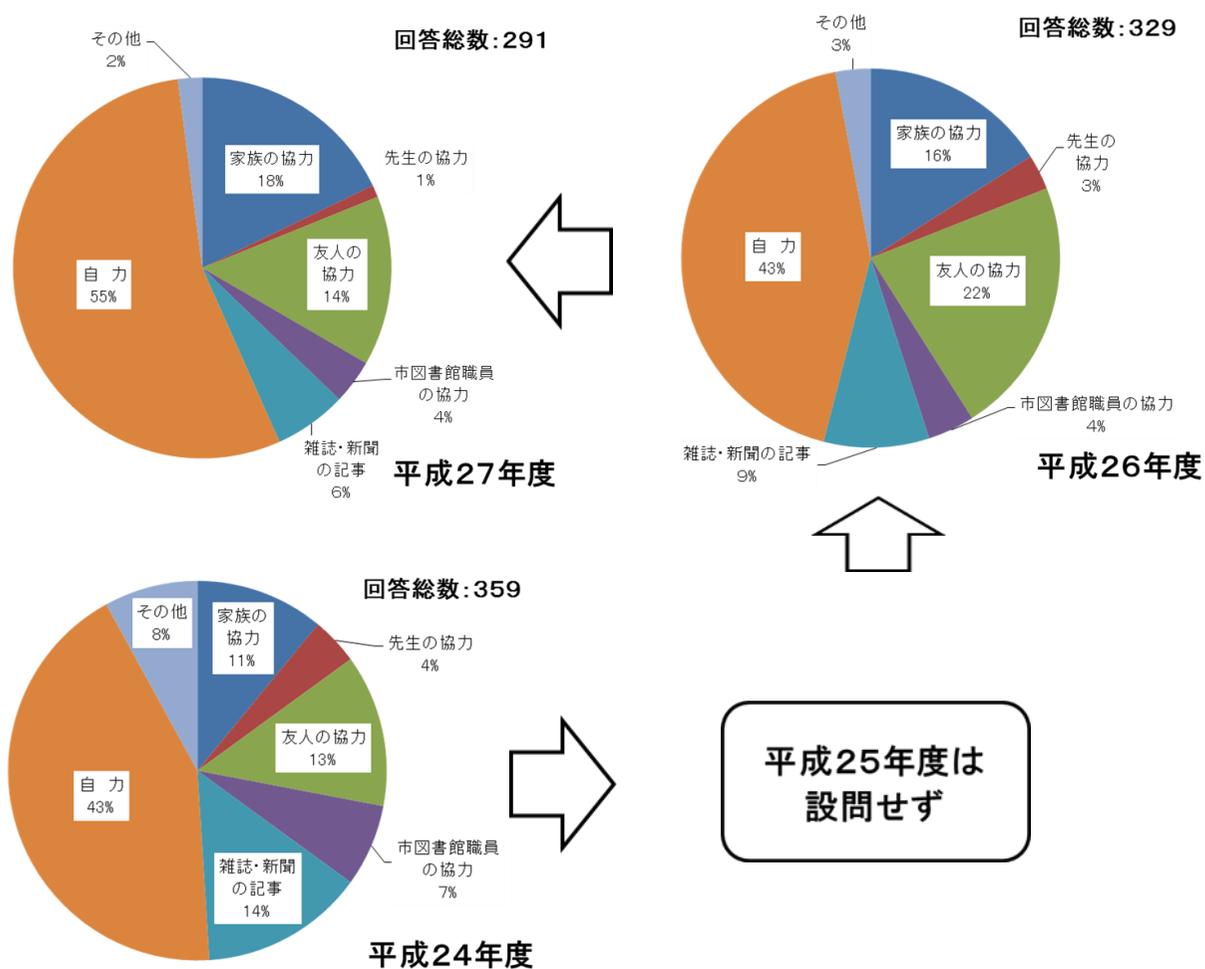


図 18 「あなたの本の探し方を教えてください（複数回答）」に対する小学校5年生の回答様相

「家族の協力(青)」は、11% (H24)、16% (H26)、18% (H27)と年度とともに上昇。平成27年度には20%に迫る。

「先生の協力(赤)」は、4% (H24)、3% (H26)、1% (H27)と、年度とともに下降する。

「友人の協力(緑)」は、13% (H24)、22% (H26)、14% (H27)と、平成26年度のみ20%台に達する。平成27年度は下降するが平成24年度とほぼ同じ様相を保った。

「市図書館職員の協力(紫)」は、7% (H24)、4% (H26)、4% (H27)と、平成26年度に平成24年度の1/2近くまで下降するが以後は一定する。

「雑誌・新聞の記事(青緑)」は、14% (H24)、9% (H26)、6% (H27)と年度とともに下降、平成26年度に10%を切る。

「自力(橙)」は、43% (H24)、43% (H26)、55% (H27)と、43%で一定していたものが平成27年度に上昇、50%を突破する。

「その他(空)」は、8% (H24)、3% (H26)、2% (H27)と年度とともに下降、平成26年度は平成24年度の1/2近くまで下降する。

「自力」が50%を突破し、「家族」が上昇する一方、他の回答は下降あるいは現状維持で推移する。

小学校2年生と同様、本の探索は基本自力で、手に余る場合には家族の協力を得る一方、第三者からの協力は弱まっている傾向を伺うことができる。

3) 中学校2年生

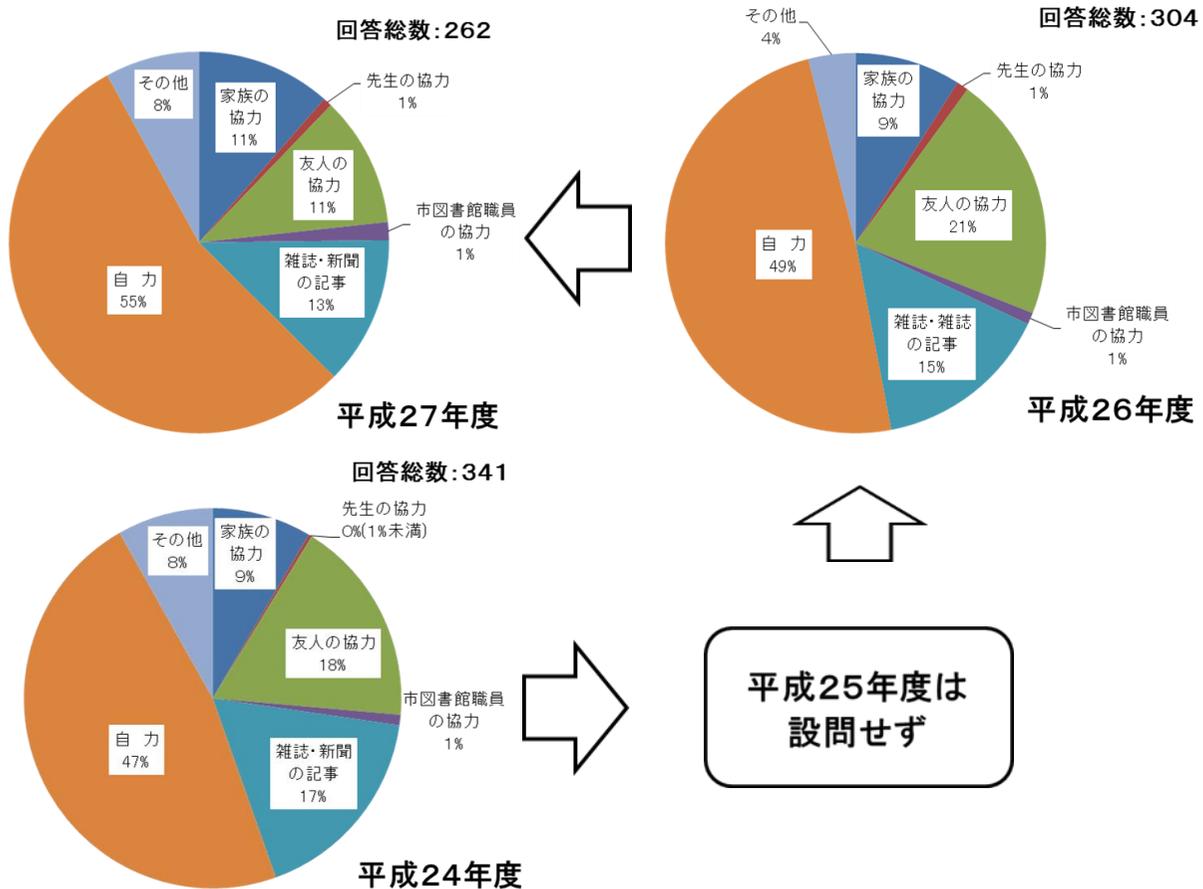


図 19 「あなたの本の探し方を教えてください（複数回答）」に対する中学校2年生の回答様相

「家族の協力(青)」は、9% (H24)、9% (H26)、11% (H27)と、それまで9%で一定していたものが平成27年度に上昇し10%を突破する。

「先生の協力(赤)」は、1%未満(H24)、1%(H26)、1%(H27)と最小値で推移する。

「友人の協力(緑)」は、18%(H24)、21%(H26)、11%(H27)と、平成26年度に20%台に達したが、平成27年度に10%台前半まで大きく下降し最小値を示す。

「市図書館職員の協力(紫)」は、全年度1%で一定。

「雑誌・新聞の記事(青緑)」は、17%(H24)、15%(H26)、13%(H27)と、10%台の範囲ながら年度とともに下降する。

「自力(橙)」は、47%(H24)、49%(H26)、55%(H27)と年度とともに上昇する。全ての調査年度で最多回答の位置を占めており、平成27年度には50%を突破している。

「その他(空)」は、8%(H24)、4%(H26)、8%(H27)と10%未満の範囲で変動。平成26年度のみ前年度の1/2に下降するが、前後の年度の数値は一定である。

平成27年度には自力が50%を突破する一方、家族を除く回答は一律に下降または現状維持となっている。

小学校時代の様相と同じく、本の探索は自力を第一に、必要に応じて家族の協力を得ているが、第三者の協力を得るといった選択は下降しており、その傾向は年度とともに強まっているといえる。

問5 読みたいと思った本はどうやって読みますか(複数回答)

(1) 平成27年度の回答様相

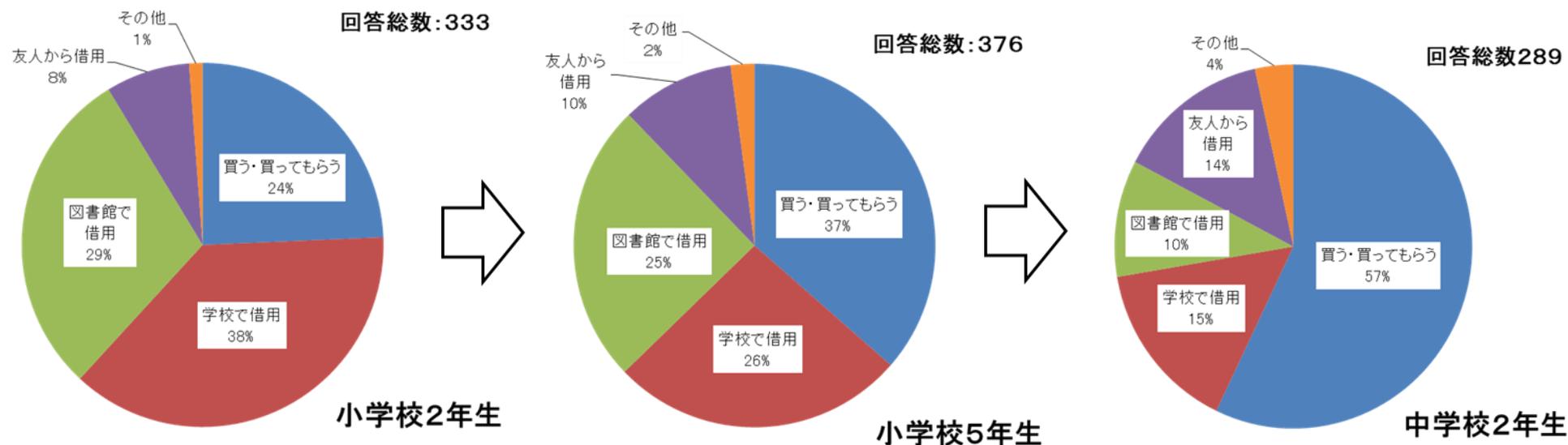


図20 「読みたいと思った本はどうやって読みますか？(複数回答)」に対する平成27年度の回答様相

「買う・買ってもらう(青)」は、24%(小2)、37%(小5)、57%(中2)と、学年とともに上昇、中学校2年生には50%を突破する。

「学校で借用(赤)」は、38%(小2)、26%(小5)、15%(中2)と、学年とともに下降する。小学校2年生で40%に迫っていた値が中学校2年生では10%台半ばとなり、大きく下降する。

「図書館で借用(緑)」は、29%(小2)、25%(小5)、10%(中2)と、学年とともに下降、小学校2年生で30%に迫っていた値が中学校2年生では10%となり、大きく下降する。

「友人から借用(紫)」は、8%(小2)、10%(小5)、14%(中2)と、学年とともに上昇、小学校5年生以降は10%台で推移する。

「その他(橙)」は1%(小2)、2%(小5)、4%(中2)と、学年とともに上昇するが、5%未満の範囲内においてである。

学年とともに買う・買ってもらうとする回答が上昇、学校や図書館で借りるとする回答が下降し、購入による本の確保が主流を占めつつある。ただし友人からの借用については上昇しており、交友関係の中では、本の貸し借りも伴うことがわかる。

(2) 平成24年度からの回答様相の変遷

1) 小学校2年生

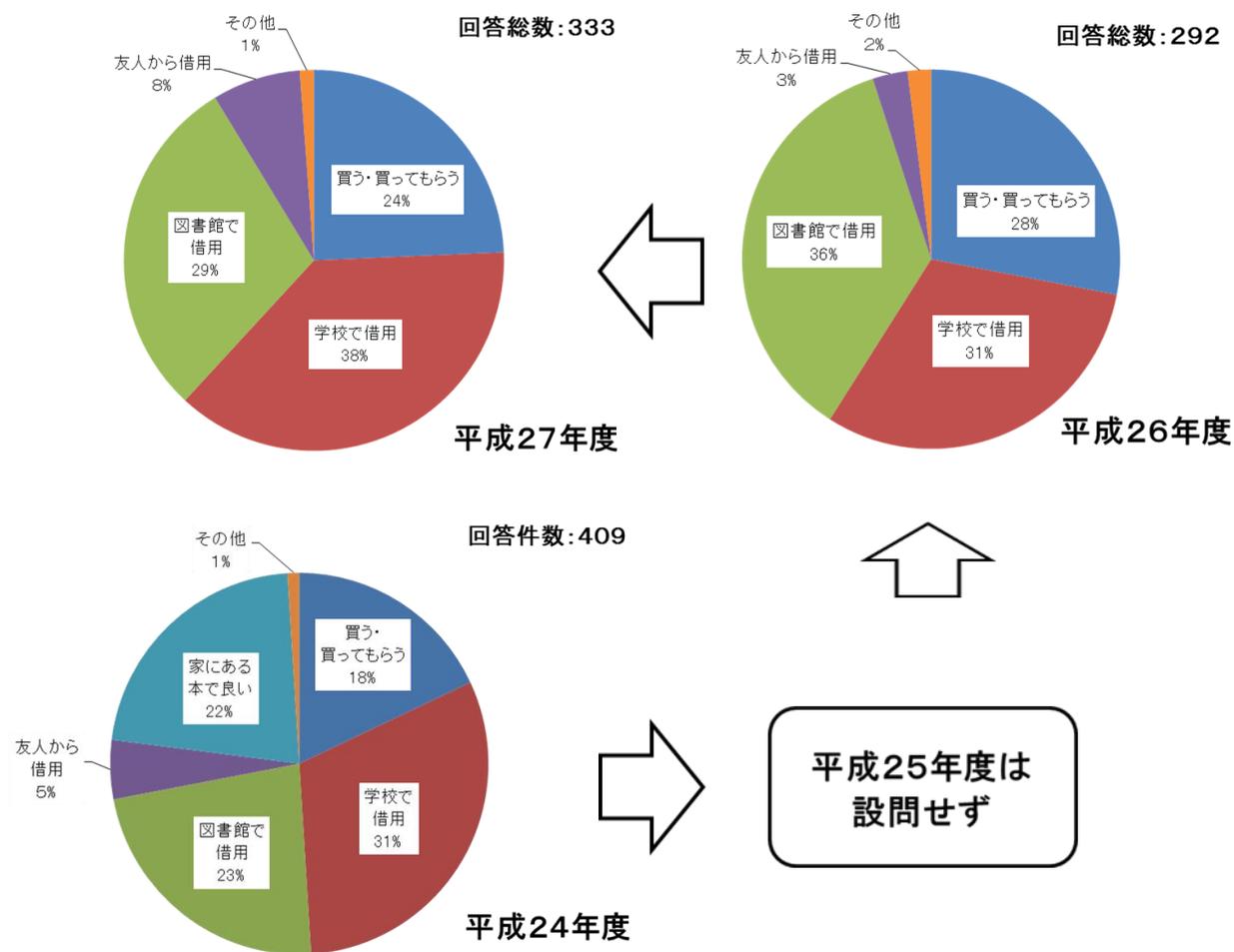


図21 「読みたいと思った本はどうやって読みますか？(複数回答)」に対する小学校2年生の回答様相

平成25年度調査では本問は設けていない。

「買う・買ってもらう(青)」は、18%(H24)、28%(H26)、24%(H27)。平成26年度に30%に迫り、平成27年度は下降するが20%台を維持、平成24年度を上回っている。

「学校で借用(赤)」は、31%(H24)、31%(H26)、38%(H27)と30%台で推移。平成27年度に上昇、40%に迫る。

「図書館で借用(緑)」は、23%(H24)、36%(H26)、29%(H27)と、平成26年度に30%を突破するが前後の年度は20%台で推移。平成27年度に下降するが平成24年度の様相は上回っている。

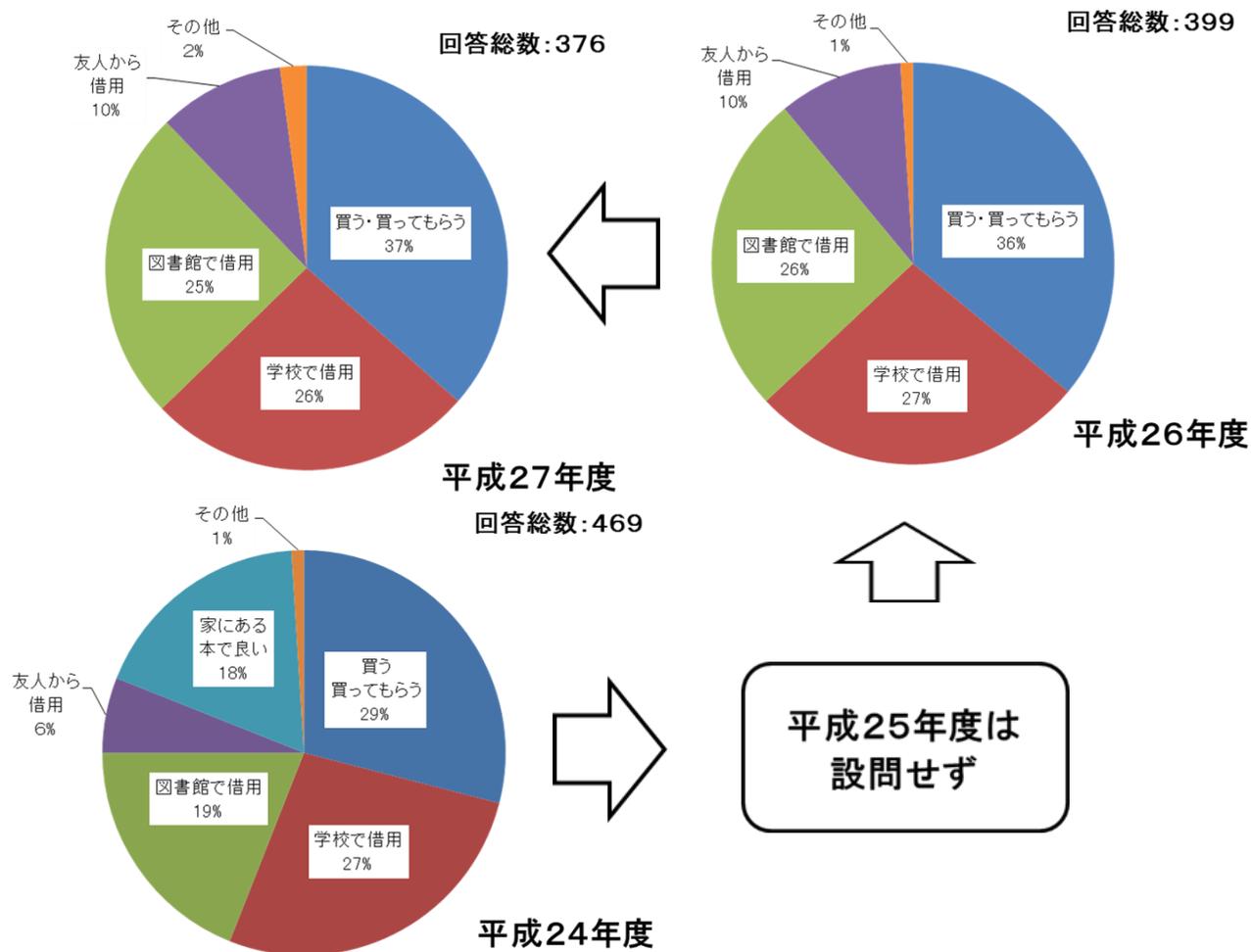
「友人から借用(紫)」は、5%(H24)、3%(H26)、8%(H27)と、10%未満の範囲で変動。平成26年度に下降、最小値を示し、平成27年度には上昇、10%に迫り最大値を示す。

「その他(橙)」は、1%(H24)、2%(H26)、1%(H27)と平成26年度のみ上昇するが他年度との差は1%にとどまる。

買う・買ってもらうよりも学校や図書館で借りるとする回答が高い。この様相は今回調査対象となった全学年中、唯一の事例である。

幼稚園・保育園において絵本の貸出を経験しており、小学校では図書館の生活科見学なども含んだ図書教育を受けているなど、2年生の環境が、この様相の構成に大きく影響していると考えられる。

2) 小学校5年生



「買う・買ってもらう(青)」は、29% (H24)、36% (H26)、37% (H27)と年度とともに上昇、平成26年度は30%を突破、平成27年度には40%に迫り、最大値を示す。

「学校で借用(赤)」は、27% (H24)、27% (H26)、26% (H27)と20%台で推移する。平成27年度に下降し最小値を示すが、他年度差は1%にとどまる。

「図書館で借用(緑)」は、19% (H24)、26% (H26)、25% (H27)。平成26年度に20%を突破、平成27年度には下降するものの前年度との差は1%にとどまる。

「友人から借用(紫)」は、6% (H24)、10% (H26)、10% (H27)と、平成26年度以降10%に達する。

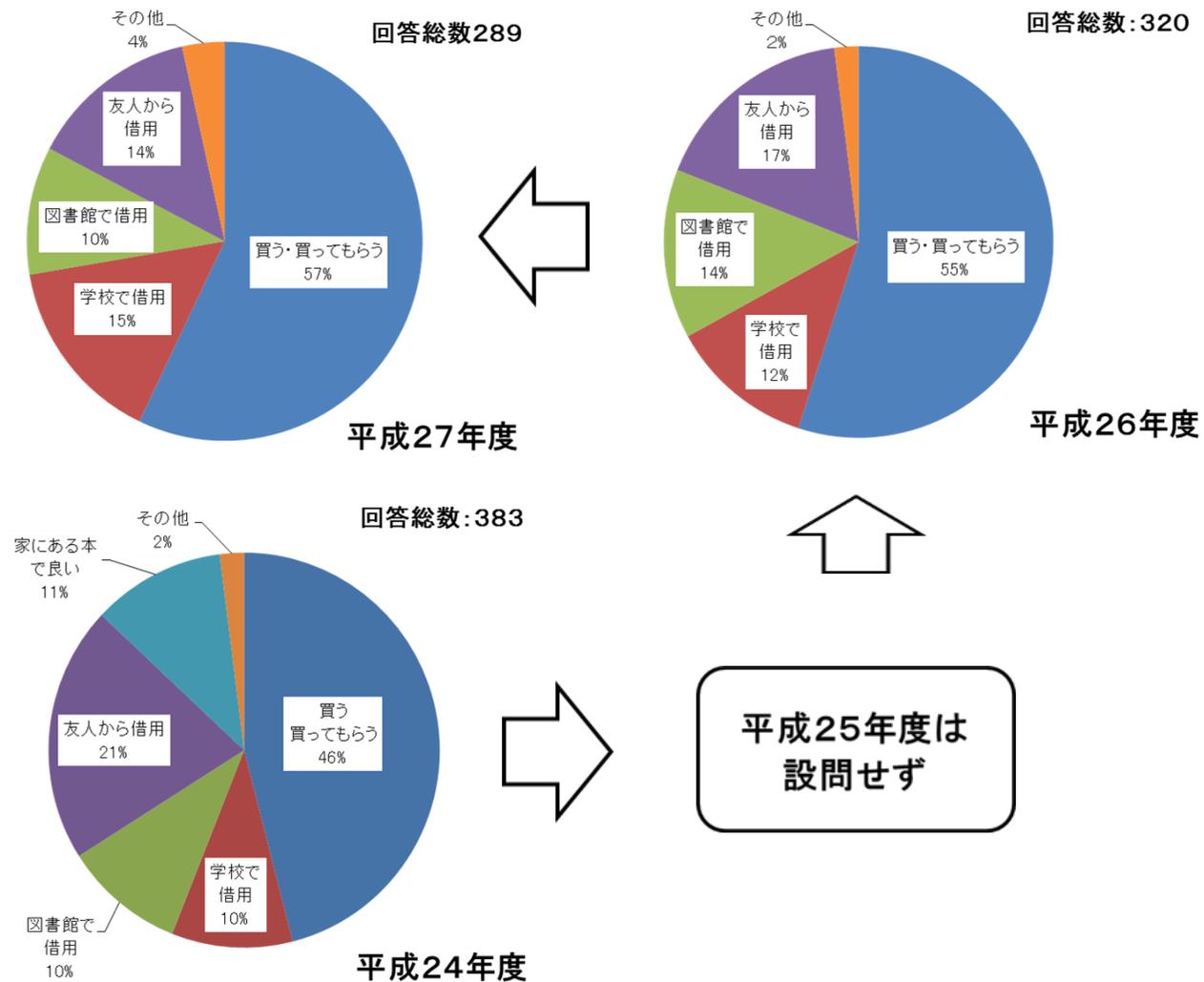
「その他(橙)」は、1% (H24)、1% (H26)、2% (H27)と平成27年度に上昇するが前年度との差は1%にとどまる。

買う・買ってもらうは上昇の、図書館や友人からの借用は巨視的には上昇の傾向を示す。

平成27年度の回答様相は、平成26年度のそれと殆ど変わらない。

図22 「読みたいと思った本はどうやって読みますか？(複数回答)」に対する小学校5年生の回答様相

3) 中学校2年生



「買う・買ってもらう(青)」は、46% (H24)、55% (H26)、57% (H27)と年度とともに上昇。平成26年度には50%を突破する。

「学校で借用(赤)」は、10% (H24)、12% (H26)、15% (H27)と、10%前半の範囲ながら年度とともに上昇する。

「図書館で借用(緑)」は、10% (H24)、14% (H26)、10% (H27)と10%前半の範囲で変動。平成26年度のみ上昇したが前後の年度は一定である。

「友人から借用(紫)」は、21% (H24)、17% (H26)、14% (H27)と年度とともに下降、平成26年度以降は20%を切る。

「その他(橙)」は、2% (H24)、2% (H26)、4% (H27)と変動。平成27年度に上昇するが他学年との差は2%である。

買う・買ってもらう、学校で借用の回答が上昇、図書館や友人から借用の回答は下降する。平成26年度以降、買う・買ってもらうは単独で全回答の過半を占めており、数値の上からも本の入手方法としては購入が最も多いことがわかる。

図23 「読みたいと思った本はどうやって読みますか？(複数回答)」に対する中学校2年生の回答様相

問6 小学校に入る前に、誰かから本を読んでもらったことがありますか？

(1) 平成27年度の回答様相

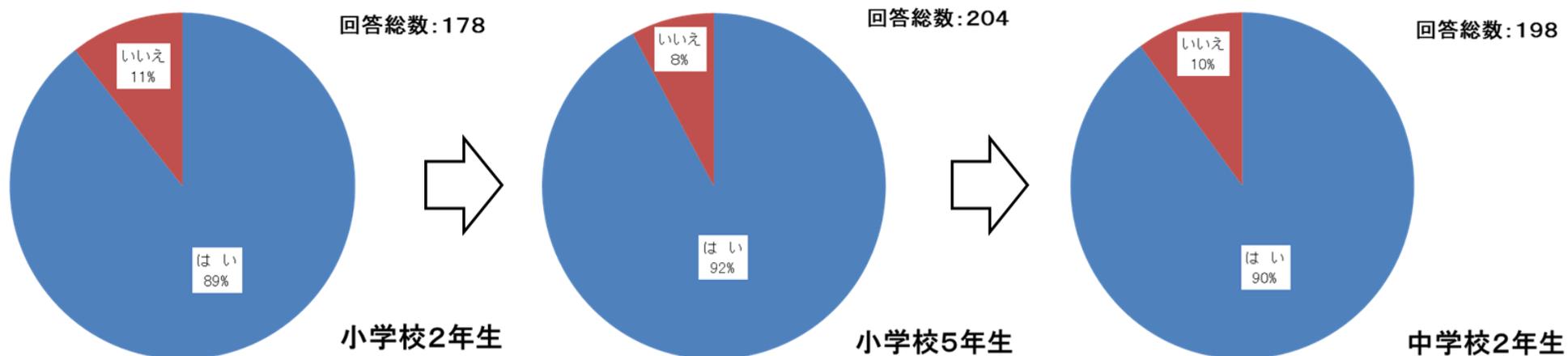


図24 「小学校へ入る前に、誰かから本を読んでもらったことがありますか？」に対する平成27年度の回答様相

ここから質問の方向性を変え、子どもたちの読み聞かせ体験について尋ねてみた。

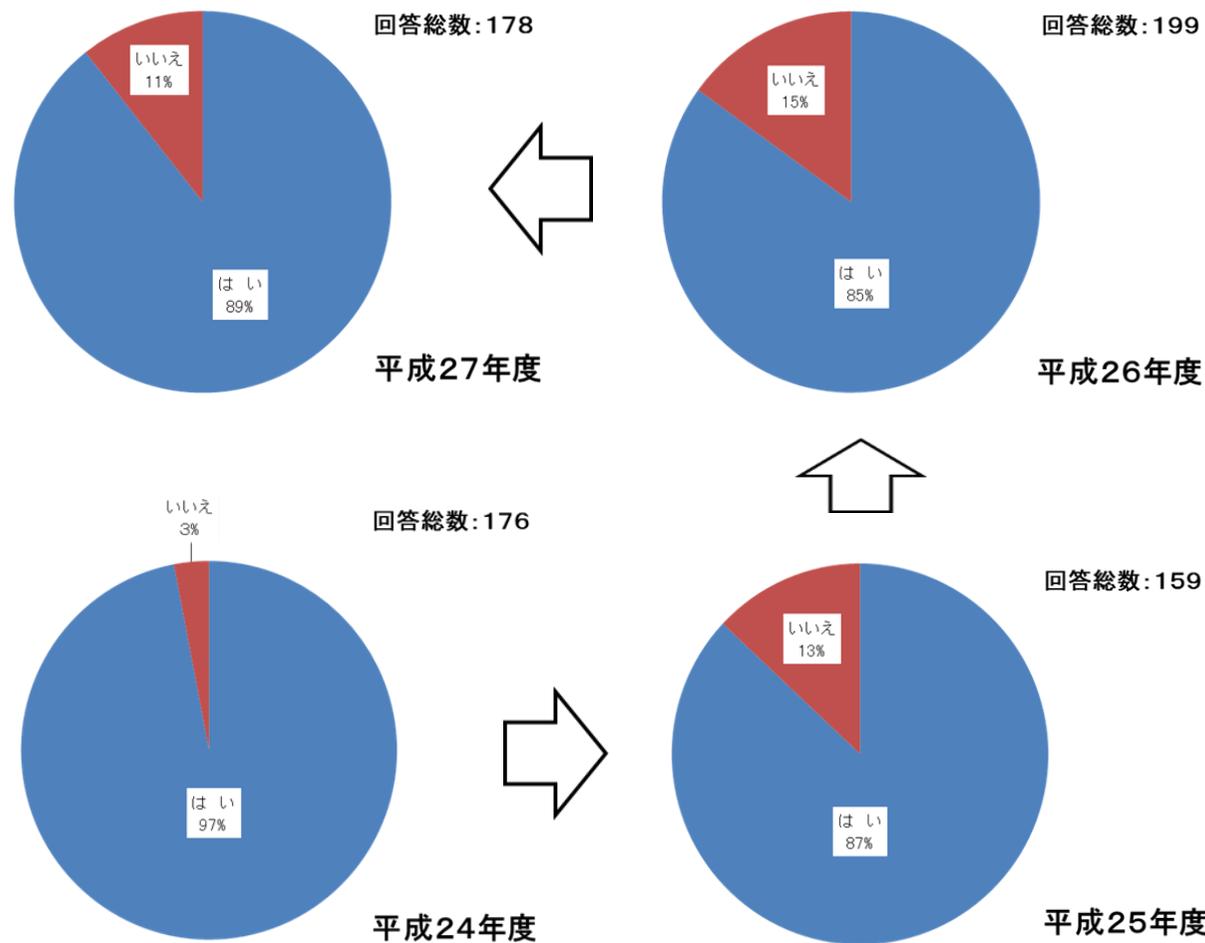
「はい(青)」は、89%(小2)、92%(小5)、90%(中2)と、90%前後で推移するが、全学年が2%以内の差にとどまる。

「いいえ(赤)」は、11%(小2)、8%(小5)、10%(中2)と、10%前後で推移するが、全学年が3%以内の差にとどまる。

全学年とも両回答の比率構成はほぼ9：1で、非常に近似した様相を示している。

(2) 平成 24 年度からの回答様相の変遷

1) 小学校 2 年生



「はい(青)」は、97% (H24)、87% (H25)、85% (H26)、89% (H27) と変動。平成 25 年度に 90% を切り、平成 26 年度まで下降する。平成 25 年度以降は上昇、90% に迫るが平成 24 年度の様相には及ばない。

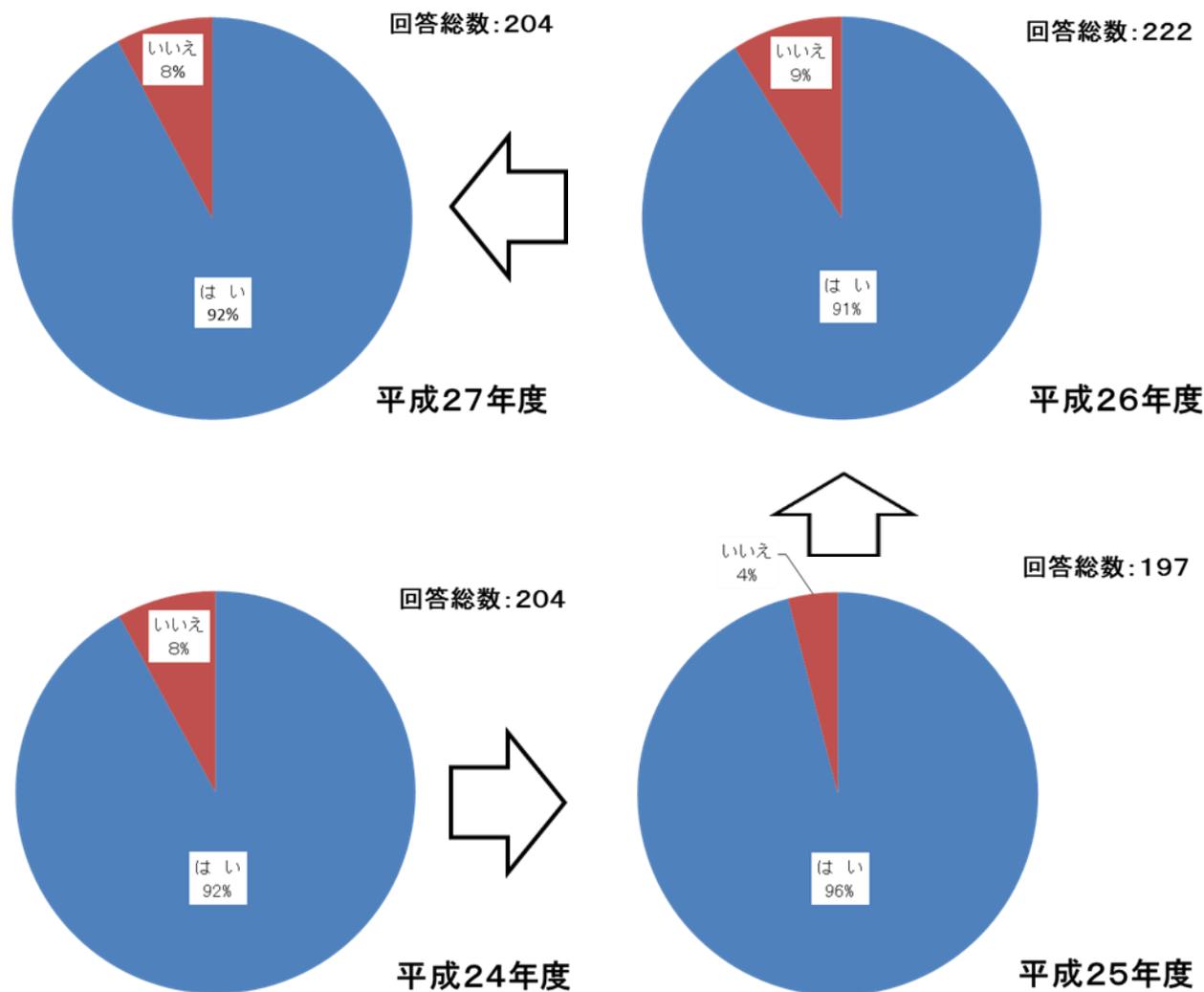
「いいえ(赤)」は、3% (H24)、13% (H25)、15% (H26)、11% (H27) と、平成 25 年度に 10% を突破、平成 26 年度に最大値を示す。平成 27 年度は下降するが 10% 台を保っている。

平成 24 年度には「はい」の回答が 100% 近くを占めていたが、それ以降は「はい」:「いいえ」の比率は 9 : 1 の近似値で推移している。

読み聞かせの経験率は高率であるものの、ここ 3 年間、未経験の回答が 10% を切らない。これは調査した全学年中最大であり、この状況が続いている点に留意したい。

図 25 「小学校へ入る前に、誰かから本を読んでもらったことがありますか？」に対する小学校 2 年生の回答様相

2) 小学校5年生



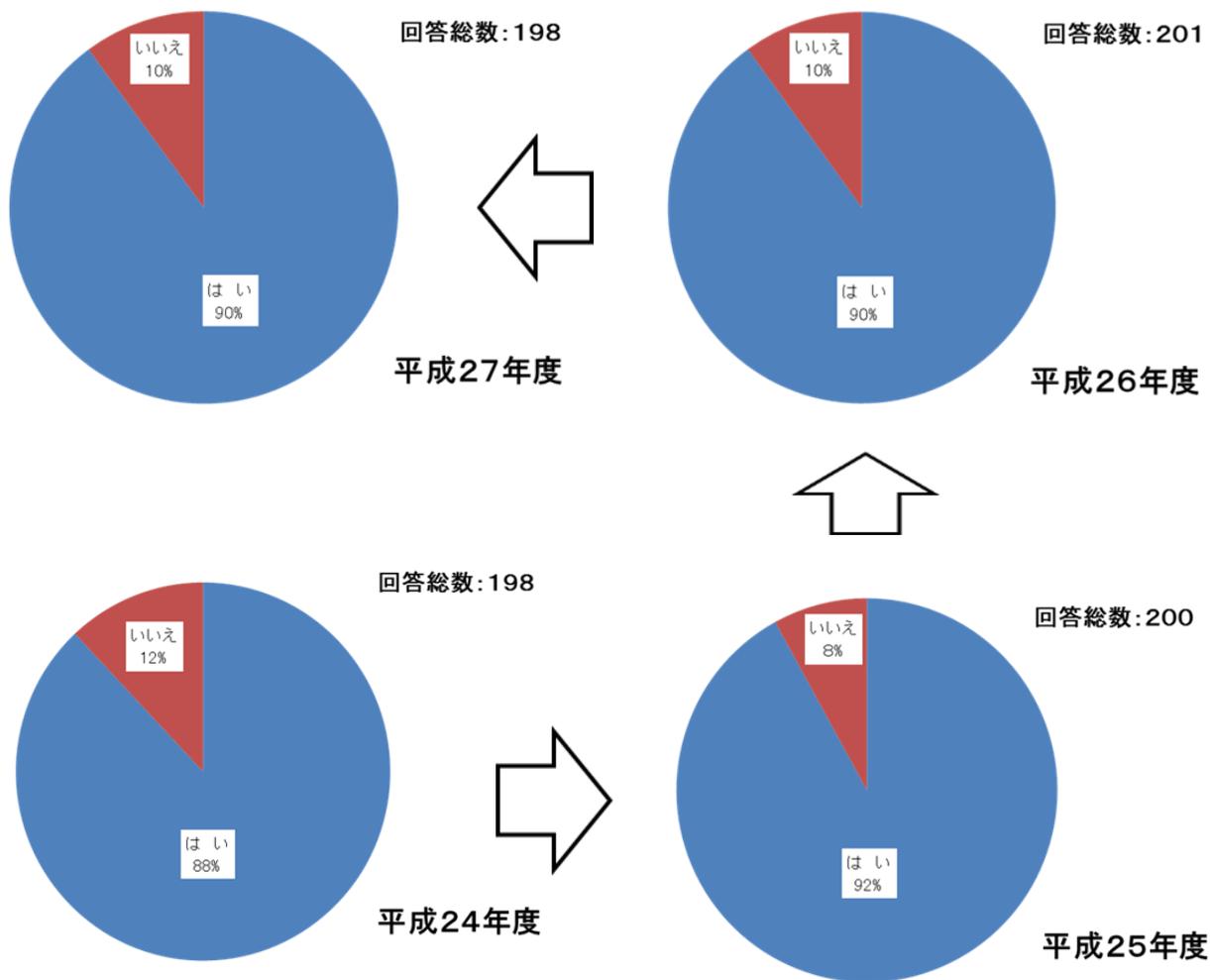
「はい(青)」は、92% (H24)、96% (H25)、91% (H26)、92% (H27) と 90% 台で変動。平成 25 年度に 90% 台後半に達したが、他年度は 90% 台前半で推移する。

「いいえ(赤)」は、8% (H24)、4% (H25)、9% (H26)、8% (H27) と 10% 未満で変動。平成 25 年度に 1% 台前半まで下降したものの、他年度は 10% に迫る数値で推移している。

「はい」：「いいえ」の比率は全期間を通じて 9 : 1 を上回っており、実数的には小学校 2 年生より「はい」の回答率が高い様相を示している。

図 26 「小学校へ入る前に、誰かから本を読んでもらったことがありますか？」に対する小学校 5 年生の回答様相

3) 中学校2年生



「はい(青)」は、88% (H24)、92% (H25)、90% (H26)、90% (H27)と90%前後で変動。平成25年度に90%台に達し、平成26年度以降は下降するが、90%を維持している。

「いいえ(赤)」は、12% (H24)、8% (H25)、10% (H26)、10% (H27)と、平成25年度に10%を切ったものの、他年度は10%台前半で推移する。

両回答の比率は、平成25年度以前は9：1に近似した値で、平成26年度以降は9：1で推移する。「はい」の回答率が小学校5年生よりも低くなっている点に留意したい。

図27 「小学校へ入る前に、誰かから本を読んでもらったことがありますか？」に対する中学校2年生の回答様相

問7 問6で「はい」に○を付けた方にうかがいます。本を読んでもらったのは誰ですか？（複数回答）

(1) 平成27年度の回答様相

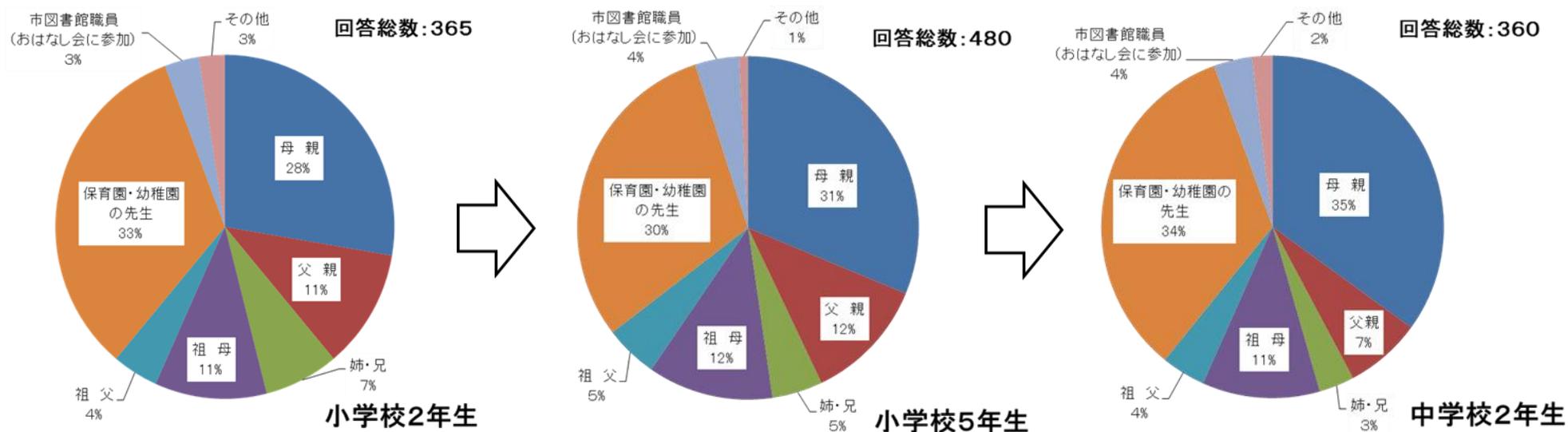


図28 「本を読んでもらったのは誰ですか？（複数回答）」に対する平成27年度の回答様相

「母親(青)」は、28%(小2)、31%(小5)、35%(中2)と学年とともに上昇、小学校5年生以降は30%台に達する。

「父親(赤)」は、11%(小2)、12%(小5)、7%(中2)。小学校5年生で上昇するが前学年との差は1%にとどまる。中学校2年生で10%を切り最小値を示す。

「姉・兄(緑)」は、7%(小2)、5%(小5)、3%(中2)と10%未満で推移。学年とともに下降する。

「祖母(紫)」は、11%(小2)、12%(小5)、11%(中2)と10%台で推移。小学校5年生に上昇するが、他学年との差は1%にとどまる。

「祖父(青)」は、4%(小2)、5%(小5)、4%(中2)と10%未満で推移。小学校5年生に上昇するが、他学年との差は1%にとどまる。

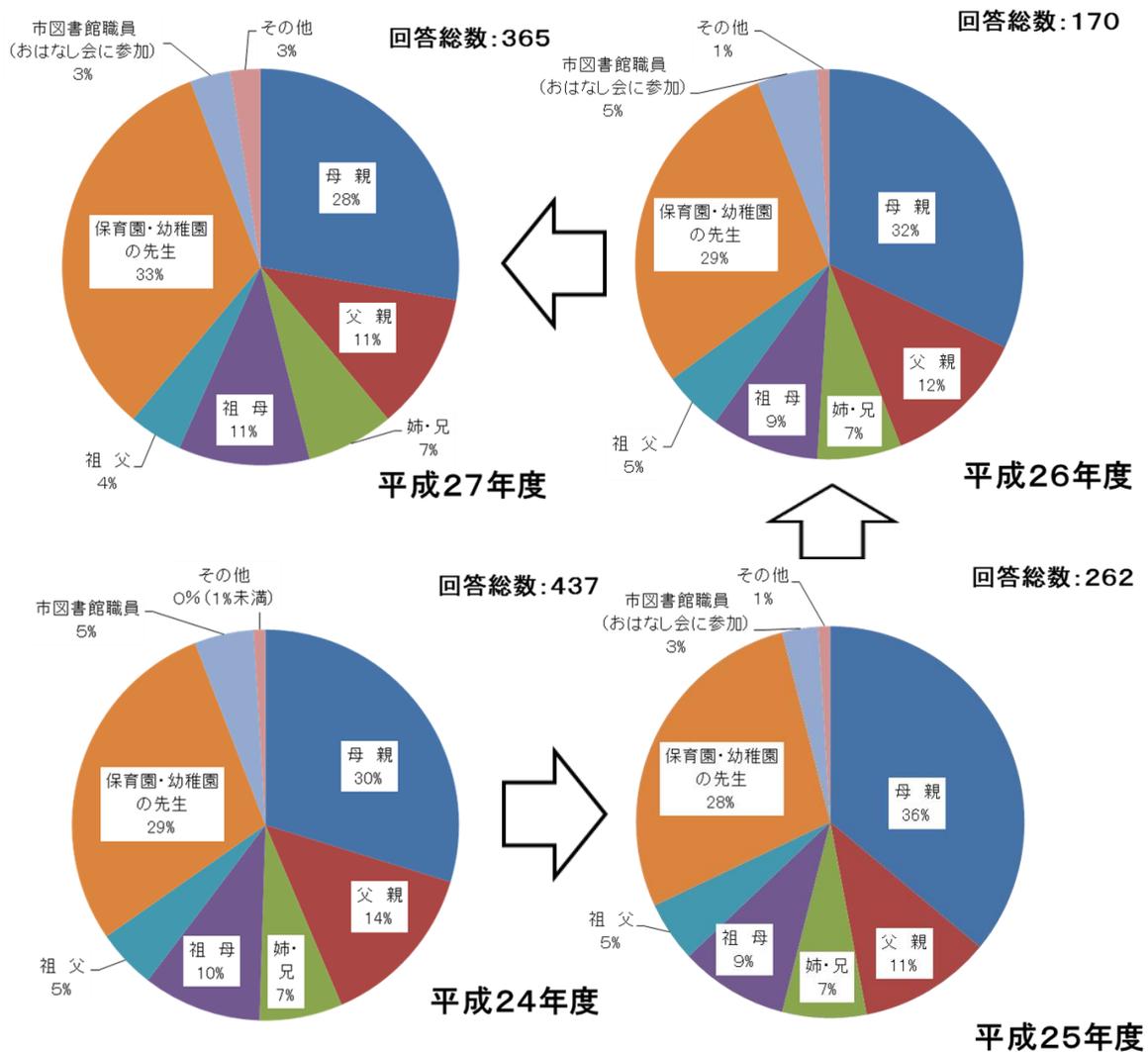
「保育園・幼稚園の先生(橙)」は、33%(小2)、30%(小5)、34%(中2)と30%台前半で推移。小学校5年生で下降、中学校2年生で上昇し最大値を示す。

「市図書館職員(空色)」は、3%(小2)、4%(小5)、4%(中2)と、小学校5年生以降上昇するが、小学校2年生との差は1%にとどまる。

全学年を通じ回答順位は殆ど変動しないが、低学年ほど読み手に占める母親の割合が下降、父親や姉・兄の割合が上昇する傾向を看取できる。保育園・幼稚園の先生は全学年を通じ全回答の1/3を占め、母親と同等かこれを超える。幼稚園・保育園の読み聞かせ事業の重要性が際立った結果といえる。

(2) 平成 24 年度からの回答様相の変遷

1) 小学校 2 年生



「母親(青)」は、30% (H24)、36% (H25)、32% (H26)、28% (H27) と変動。平成 25 年度に最大値に達して以降は下降、平成 27 年度には 30% を切り最小値を示す。

「父親(赤)」は、14% (H24)、11% (H25)、12% (H26)、11% (H27) と 10% 台前半の範囲で変動する。

姉・兄(緑)は全年度を通じて 7% である。

祖母(紫)は、10% (H24)、9% (H25)、9% (H26)、11% (H27) と 10% 前後で変動。平成 27 年度は上昇し最大値を示す。

「祖父(青緑)」は、5% (H24)、5% (H25)、5% (H26)、4% (H27) と平成 26 年度まで一定、平成 27 年度に下降するがその差は 1% にとどまる。

「保育園・幼稚園の先生(橙)」は 29% (H24)、28% (H25)、29% (H26)、33% (H27) と、ほぼ一定を保っていたものが平成 27 年度に上昇、30% を突破し最大値を示す。

「市図書館職員(空)」は、5% (H24)、3% (H25)、5% (H26)、3% (H27) と変動する。平成 27 年度には下降する。

「その他(桃)」は、1% 未満 (H24)、1% (H25)、1% (H26)、3% (H27) と平成 26 年度まで 1% 以下で推移。平成 27 年度に上昇するがその差は 2% にとどまる。

回答比率は平成 26 年度まで殆ど変化なく、平成 27 年度の変動についても、それまでの回答様相を大きく変えるものではない。しかし、母親の占める割合の下降傾向については特に注意したい。

図 29 「本を読んでくれたのは誰ですか？(複数回答)」に対する小学校 2 年生の回答様相

2) 小学校5年生

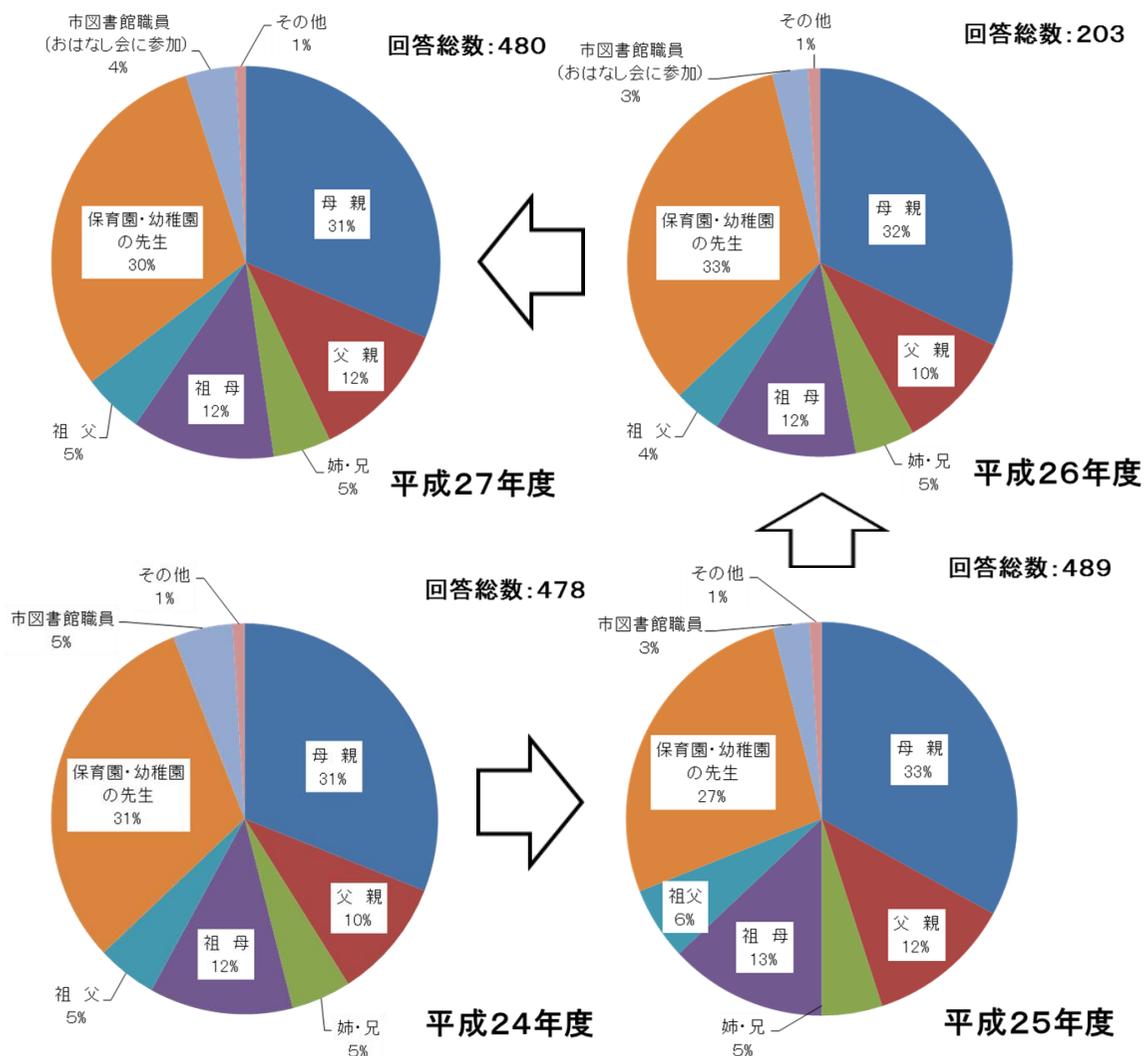


図30「本を読んでくれたのは誰ですか？（複数回答）」に対する小学校5年生の回答様相

「母親(青)」は、31%(H24)、33%(H25)、32%(H26)、31%(H27)と30%台前半で推移。平成27年度は下降、同24年度とともに最小値を示すが、その差は1～2%にとどまる。

「父親(赤)」は、10%(H24)、12%(H25)、10%(H26)、12%(H27)と、10%・12%の2値間で変動する。平成27年度は上昇し、平成25年度とともに最大値を示す。

「姉・兄(緑)」は全年度5%で変化しない。

「祖母(紫)」は、12%(H24)、13%(H25)、12%(H26)、12%(H27)と、平成25年度に上昇するが他年度は一定。他年度との差は1%にとどまる。

「祖父(青緑)」は、5%(H24)、6%(H25)、4%(H26)、5%(H27)と変動するが、その差は1～2%にとどまる。

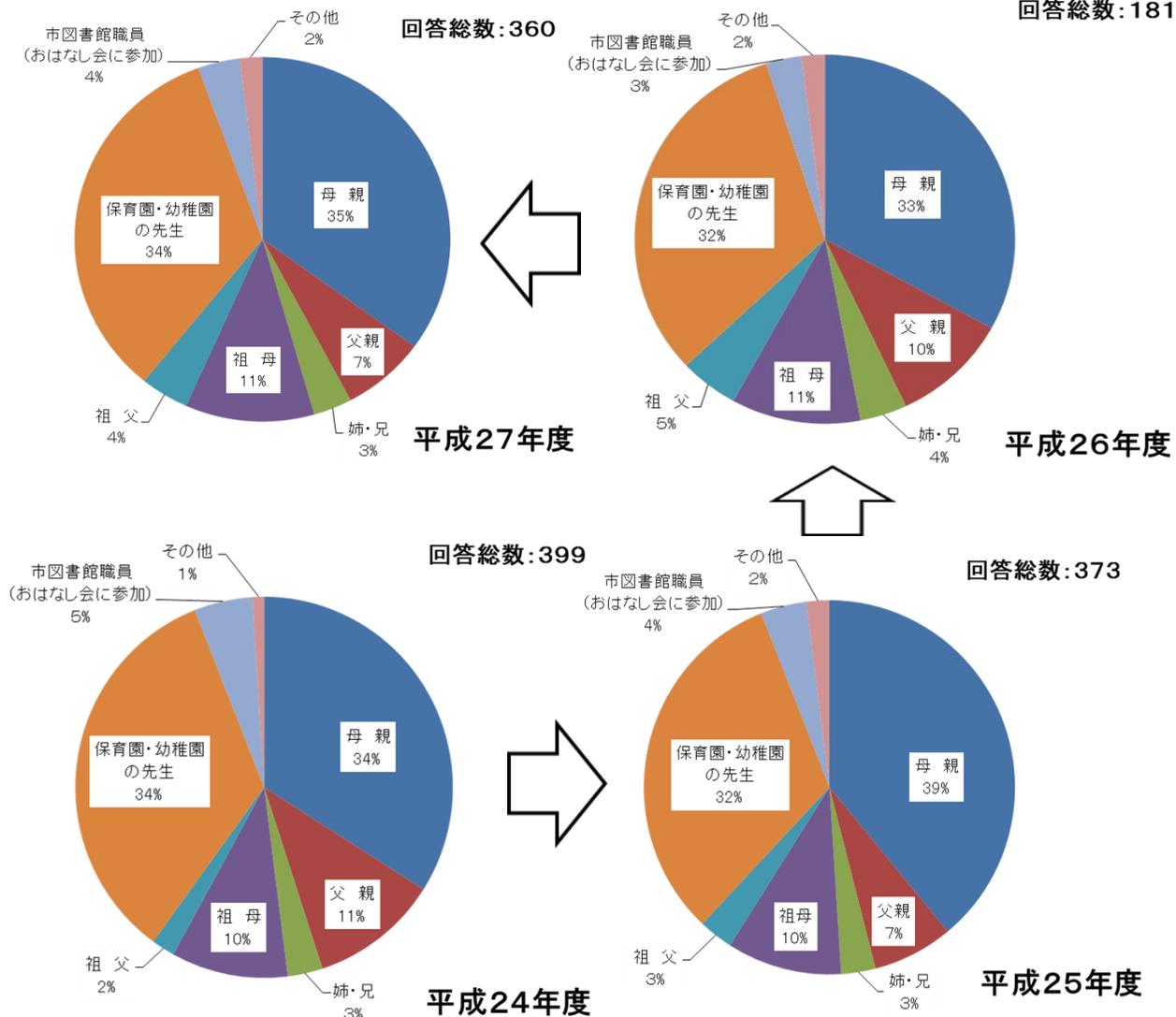
「幼稚園・保育園の先生(橙)」は、31%(H24)、27%(H25)、33%(H26)、30%(H27)と変動。平成25年度のみ30%を切るものの、他年度は30%台前半で推移。平成27年度は下降し、最小値を示す。

「市図書館職員(空)」は、5%(H24)、3%(H25)、3%(H26)、4%(H27)と5%以下の範囲で変動。平成27年度に上昇するが前年度との差は1%にとどまる。

その他(桃)は全期間1%で変化しない。

回答個々の変動はあるものの、回答率の順位は殆ど変わらない状態である。

3) 中学校2年生



「母親(青)」は、34%(H24)、39%(H25)、33%(H26)、35%(H27)と30%台で変動。平成25年度に40%に迫るが他年度は30%台前半で推移。平成27年度は上昇する。

「父親(赤)」は、11%(H24)、7%(H25)、10%(H26)、7%(H27)と変動、平成27年度は下降し、平成25年度とともに最小値を示す。

「兄弟姉妹(姉・兄)(緑)」は3%(H24)、3%(H25)、4%(H26)、3%(H27)、平成26年度のみ上昇するが他年度との差は1%にとどまる。

「祖母(紫)」は、10%(H24)、10%(H25)、11%(H26)、11%(H27)と平成26年度以降増加するが、前年度との差は1%にとどまる。

「祖父(青緑)」は、2%(H24)、3%(H25)、5%(H26)、4%(H27)と5%以下の範囲で推移。全ての調査年度における差は1~2%である。

「幼稚園・保育園の先生(橙)」は、34%(H24)、32%(H25)、32%(H26)、34%(H27)と、32%と34%の2値間で変動する。平成27年度は上昇する。

「市図書館職員(空)」は、5%(H24)、4%(H25)、3%(H26)、4%(H27)と、5%以下の範囲で推移し、その差は1~2%にとどまる。

全ての調査年度を通じて比率構成的には殆ど変化がみられず、ほぼ固定化しているといつてよい状態である。

図31 「本を読んでくれたのは誰ですか？(複数回答)」に対する中学校2年生の回答様相

問8 市の図書館へ行きますか？

(1) 平成27年度の回答様相

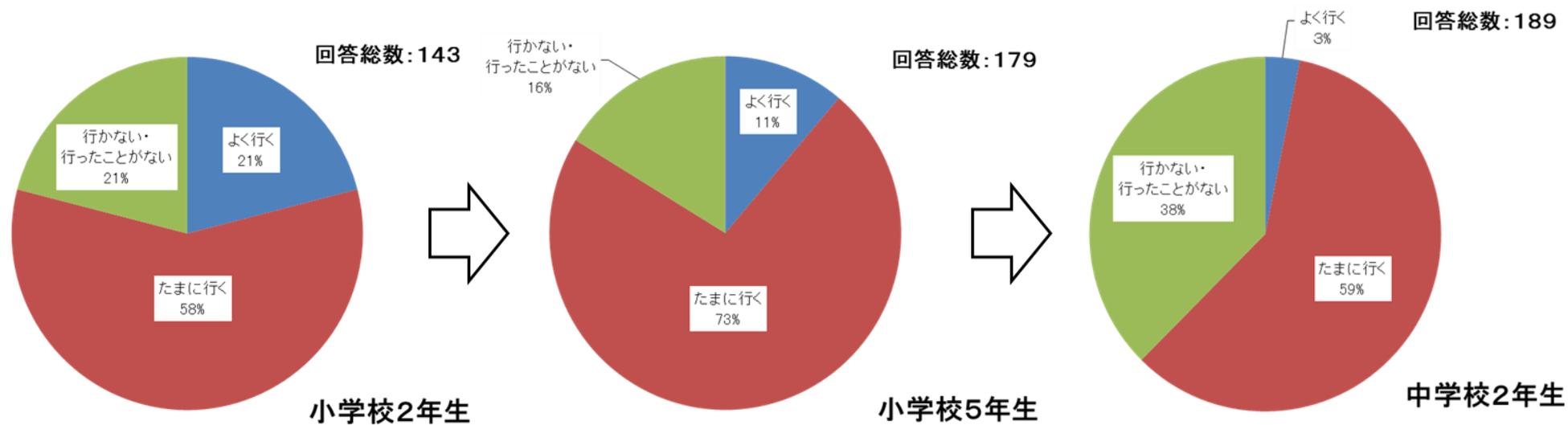


図32 「市の図書館へ行きますか？」に対する平成27年度の回答様相

「よく行く(青)」は、21%(小2)、11%(小5)、3%(中2)と、学年間で10%近く下降する。

「たまに行く(赤)」は、58%(小2)、73%(小5)、59%(中2)と、小学校5年生では全回答の3/4近く、他学年においても全回答の過半を占めている。

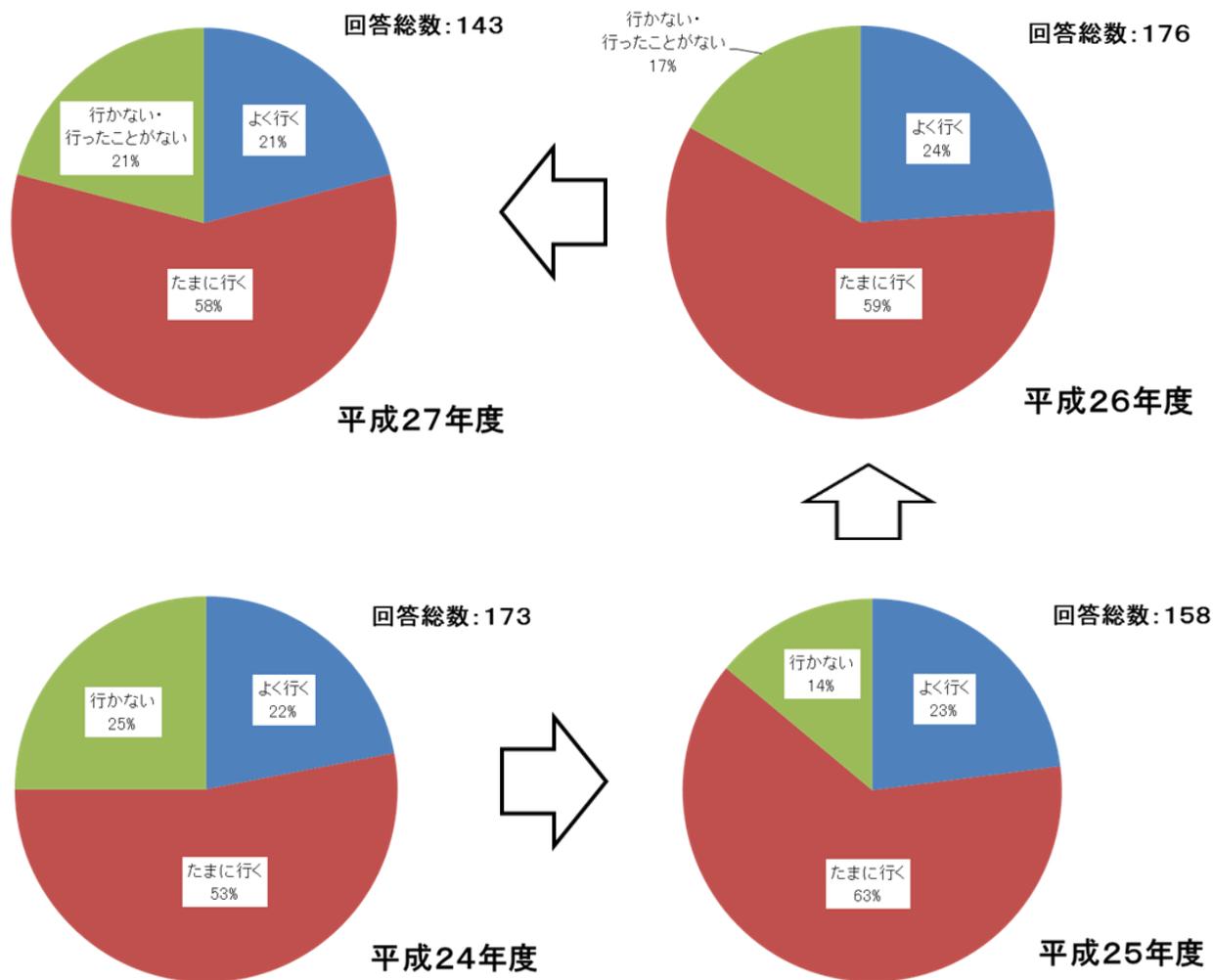
「行かない・行ったことがない(緑)」は、21%(小2)、16%(小5)、38%(中2)と、小学校時代は下降し、5年生で20%を切ったものの、中学校2年生になると一転して20%近く上昇、40%に迫る。

小学校2年生から5年生への移行期については、「たまに行く」が「行かない・行ったことがない」の下降分を吸い込んだ形で上昇している。

中学校2年生になると「行かない・行ったことがない」の回答が急上昇する。小学校時代の回答様相を観れば、実質的には「行かない」という意思を伴った、あるいは図書館への関心の低下を示す回答が増加したものとも考えられる。小学校から中学校への進学を機に、子どもたちの読書に対する意識が大きく変化する点は留意する必要があるだろう。

(2) 平成24年度からの回答様相の変遷

1) 小学校2年生



「よく行く(青)」は、22% (H24)、23% (H25)、24% (H26)、21% (H27)と平成26年度まで上昇、平成27年度に下降し最小値を示すが、全て20%台前半での推移であり、全ての調査年度の差は1～3%にとどまる。

「たまに行く(赤)」は、53% (H24)、63% (H25)、59% (H26)、58% (H27)と、平成25年度に10%上昇し、60%台に達する。それ以降は下降するが平成26年度と同27年度の差は1%にとどまる。

「行かない・行ったことがない(緑)」は、25% (H24)、14% (H25)、17% (H26)、21% (H27)と、平成25年度に10%台前半に下降、最小値を示すが再び上昇、平成27年度に20%台に達する。

本学年の子どもたちは、基本的に自力で図書館に来るのが困難であり、多くの場合は保護者など年長者の同伴で来館するケースとなる。そのため、ここに現れた数値がそのまま子どもたちの「行かない」という意思の表れとなる訳ではなく、「行けない」という外部要因に左右される状況が含まれていることを考え合わせておく必要があるだろう。

図33 「市の図書館へ行きますか？」に対する小学校2年生の回答様相

2) 小学校5年生

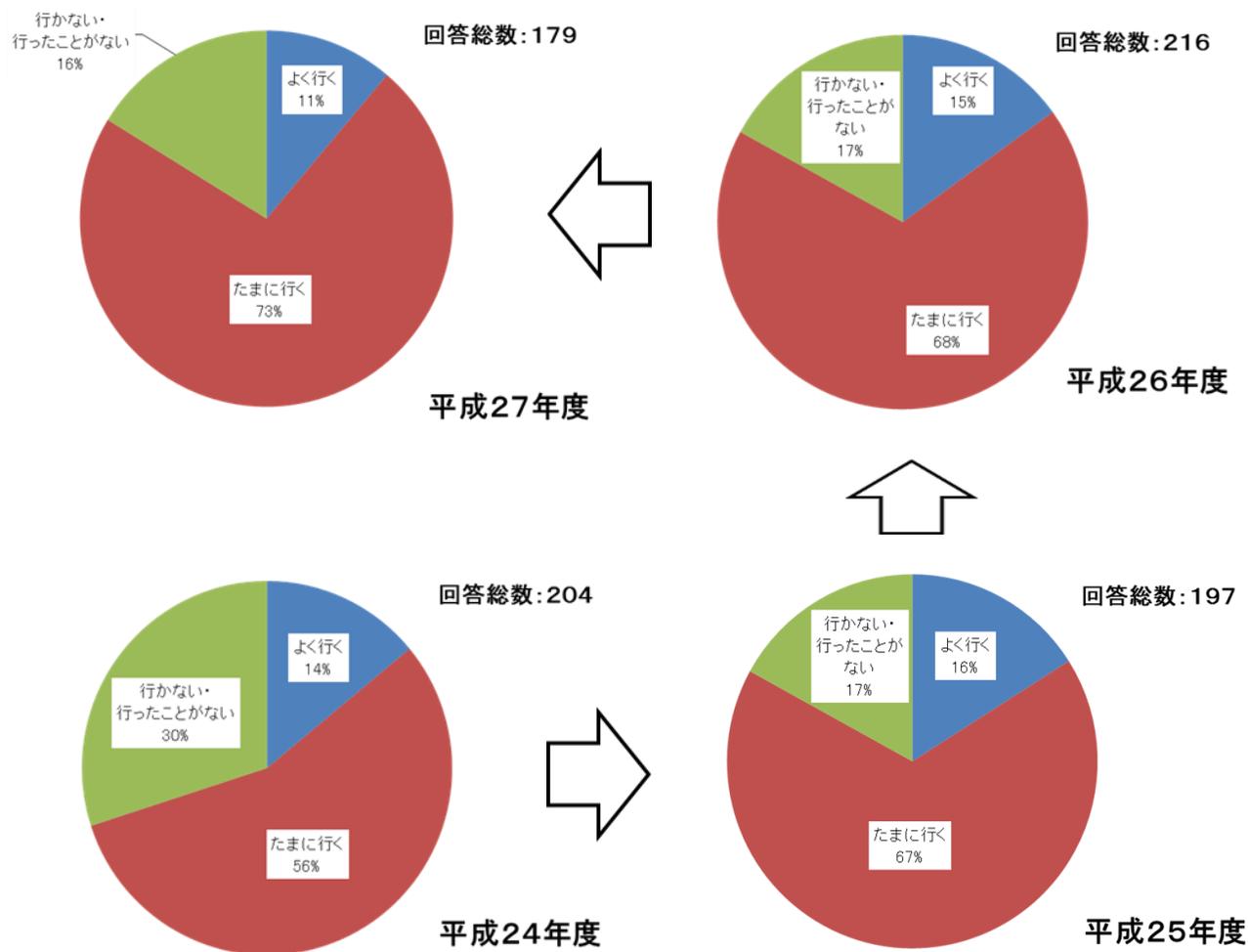


図 34 「市の図書館へ行きますか？」に対する小学校5年生の回答様相

「よく行く(青)」は、14% (H24)、16% (H25)、15% (H26)、11% (H27)と10%台で変動。平成27年度は下降し、最小値を示す。

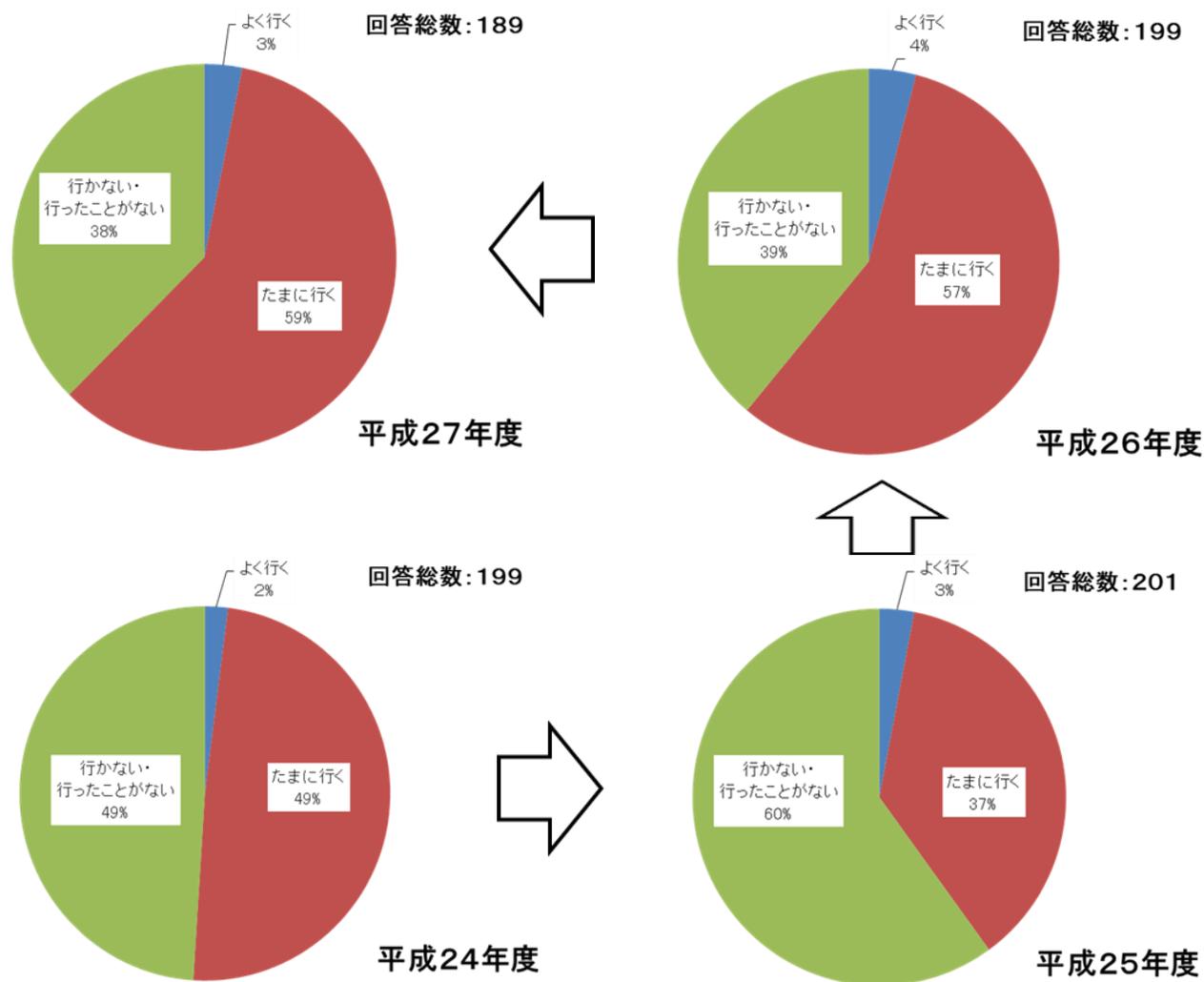
「たまに行く(赤)」は、56% (H24)、67% (H25)、68% (H26)、73% (H27)と年度とともに上昇、平成27年度には全回答の約3/4を占める。

「行かない・行ったことがない(緑)」は、30% (H24)、17% (H25)、17% (H26)、16% (H27)と、平成25年度にほぼ半分となる10%台後半に下降、平成27年度にはさらに下降し、最小値を示すが、前年度との差は1%にとどまる。

「よく行く」の下降、「たまに行く」の上昇が著しい。図書館利用者の来館頻度が低下している状況がうかがえる。

一方、「行かない・行ったことがない」とする回答は、平成25年度の下降以降は殆ど変化しない。

3) 中学校2年生



「よく行く(青)」は、2%(H24)、3%(H25)、4%(H26)、3%(H27)と5%未満の範囲で推移。平成27年度は下降するが、前年度との差は1%にとどまる。

「たまに行く(赤)」は49%(H24)、37%(H25)、57%(H26)、59%(H27)。50%に迫っていた回答率は平成25年度には30%台後半に下降、平成26年度に上昇し50%を突破する。平成27年度には60%に迫り、最大値を示す。

「行かない・行ったことがない(緑)」は、49%(H24)、60%(H25)、39%(H26)、38%(H27)と、平成25年度に60%に達したものの、平成26年度は下降し40%を切る。平成27年度はさらに下降、最小値を示すが、前年度との差は1%にとどまる。

平成25年度のみ回答様相が大きく変動しているが、行く、行かない回答比率を観てみると、平成24年度は凡そ5:5で拮抗、平成26年度、同27年度は凡そ6:4で来館が優勢を占めている。しかし小学生の回答様相と比べると、来館率の後退は著しいと言わざるを得ない。

図35 「市の図書館へ行きますか？」に対する中学校2年生の回答様相

問9 問8で「よく行く」「たまに行く」と答えた方にうかがいます。図書館へはどんな時に行きますか？（複数回答）

(1) 平成27年度の回答様相

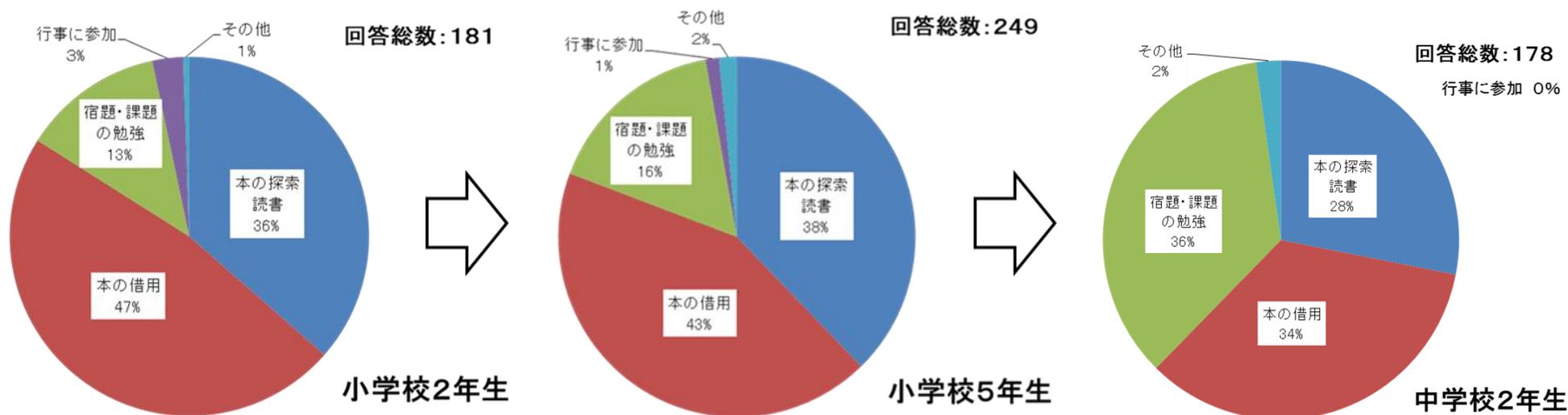


図36 「図書館へはどんな時に行きますか？（複数回答）」に対する平成27年度の回答様相

「本の探索、読書(青)」は、36%(小2)、38%(小5)、28%(中2)と、小学校時代は30%台後半で数値差2%ながら上昇傾向を示すが、中学校2年生では大きく下降、30%を切る。

「本の借用(赤)」は、47%(小2)、43%(小5)、34%(中2)と学年とともに下降、小学校2年生では50%近かった数値が中学校2年生では40%を切る。

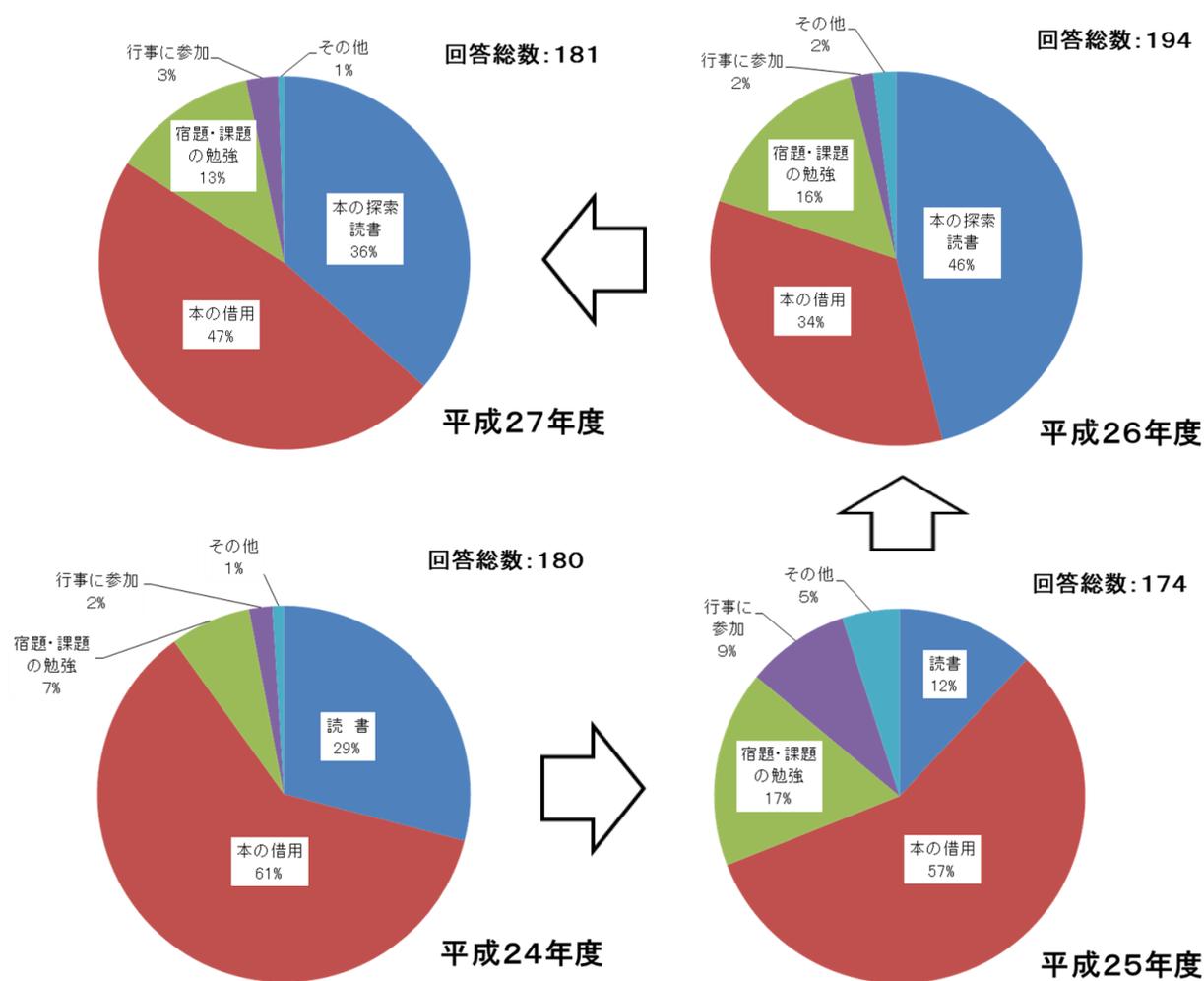
「宿題・課題の勉強(緑)」は13%(小2)、16%(小5)、36%(中2)と学年とともに上昇、特に中学校2年生では小学校時代の倍以上の上昇を見せ、30%台後半に達する。

小学生時代は「探索・読書」の下降分を「借用」が吸い込んだ形で上昇する。「宿題・課題」には上昇傾向があるものの数値的には3%とわずかな差である。しかし中学校2年生になると様相は急変、「探索・読書」、「借用」はともに下降し、「宿題・課題」が大きく上昇する。この時点で「行事に参加」の回答は消滅する。

平成26年度の調査結果に引き続き、小学生から中学生への進学とともに、子どもたちの意識の中で図書館が「本を読む場所」から「勉強する場所」へ変化する様子をはっきりと表れている。

(2) 平成 24 年度からの回答様相の変遷

1) 小学校 2 年生



「本の探索・読書(青)」は、29%(H24)、12%(H25)、46%(H26)、36%(H27)と、平成 25 年度に 10% 台前半に下降、平成 26 年度に 40% 台後半に上昇と、大きく変動する。平成 27 年度は下降したものの 30% 台後半を保った。

「本の借出(赤)」は、61%(H24)、57%(H25)、34%(H26)、47%(H27)と、平成 26 年度には平成 24 年度の半分近くに下降したが、平成 27 年度には 40% 台後半に上昇する。

「宿題・課題の勉強(緑)」は、7%(H24)、17%(H25)、16%(H26)、13%(H27)と、平成 25 年度に 20% に迫ったが以後は下降、平成 27 年度は最小値を示したものの 10% 台を保った。

「行事に参加(紫)」は、2%(H24)、9%(H25)、2%(H26)、3%(H27)と、平成 25 年度には 10% に迫るが、他年度は 5% 未満で推移。平成 27 年度に上昇するが 1% の差である。

読書、借出とも個別には変動幅が大きく、傾向をとらえることが難しいが、両者合計の比率で観ると、90%(H24)、69%(H25)、80%(H26)、83%(H27)と、平成 25 年度に大きく下降したものの、その後は 80% 台前半を保っている。トータルの変動は宿題・課題の変動に直結しているのがよくわかる。

図 37 「図書館へはどんな時に行きますか？(複数回答)」に対する小学校 2 年生の回答様相

2) 小学校5年生

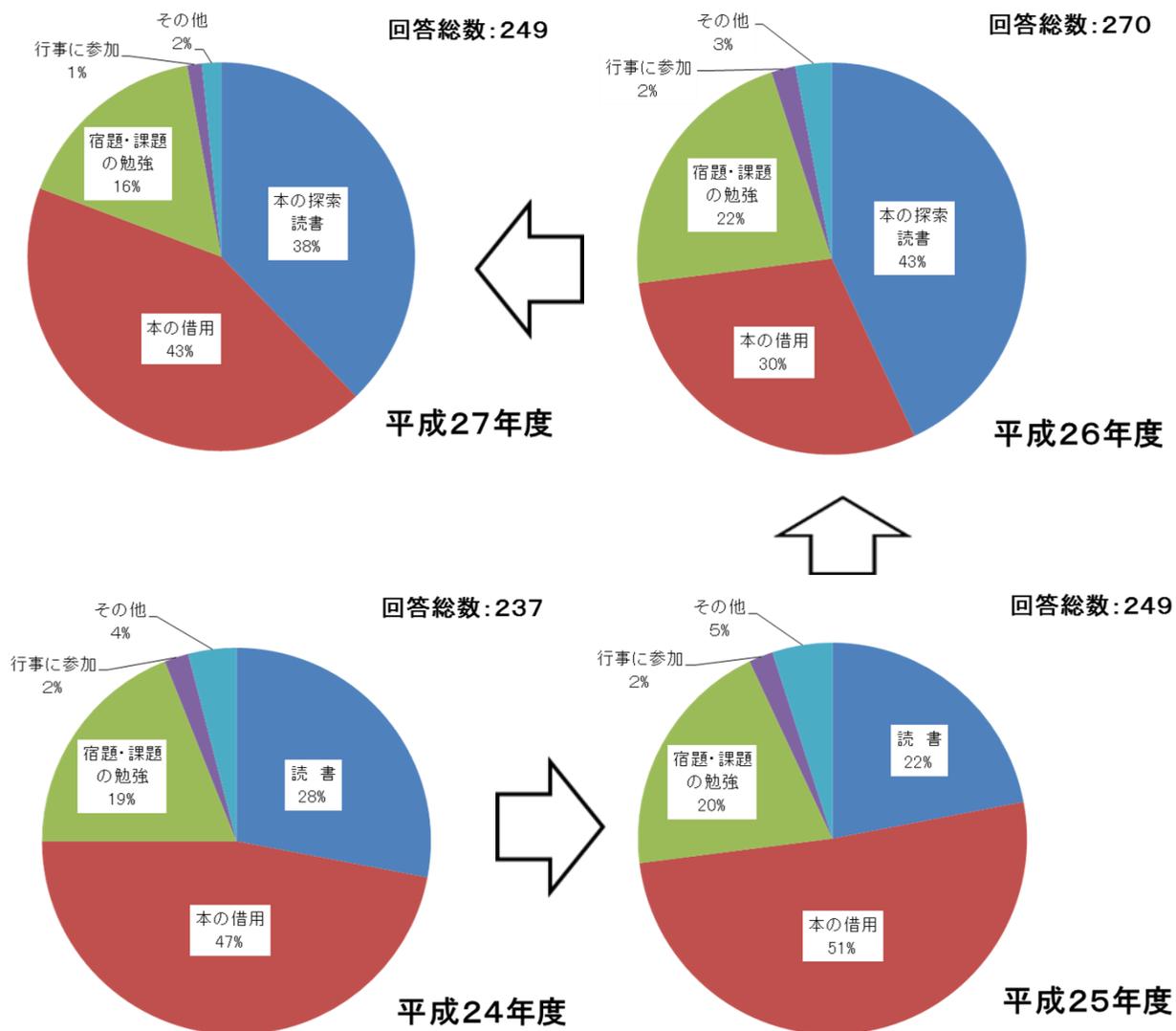


図 38 「図書館へはどんな時に行きますか？(複数回答)」に対する小学校5年生の回答様相

「本の探索・読書(青)」は、28%(H24)、22%(H25)、43%(H26)、38%(H27)と、20%台を推移していたものが平成26年度に40%台前半に上昇、平成27年度は下降したが、40%に近い数値を保っている。

「本の借用(赤)」は、47%(H24)、51%(H25)、30%(H26)、43%(H27)と、平成25年度に50%台に達したものの、平成26年度には30%に下降、平成27年度に40%台を回復したが、平成24年度の様相には及ばない。

「宿題・課題の勉強(緑)」は、19%(H24)、20%(H25)、22%(H26)、16%(H27)と、平成26年度まで上昇し、20%台前半に達したが、平成27年度は減少、最小値を示している。

「行事に参加(紫)」は、2%(H24)、2%(H25)、2%(H26)、1%(H27)と、平成27年度に下降するが、他年度との差は1%にとどまる。

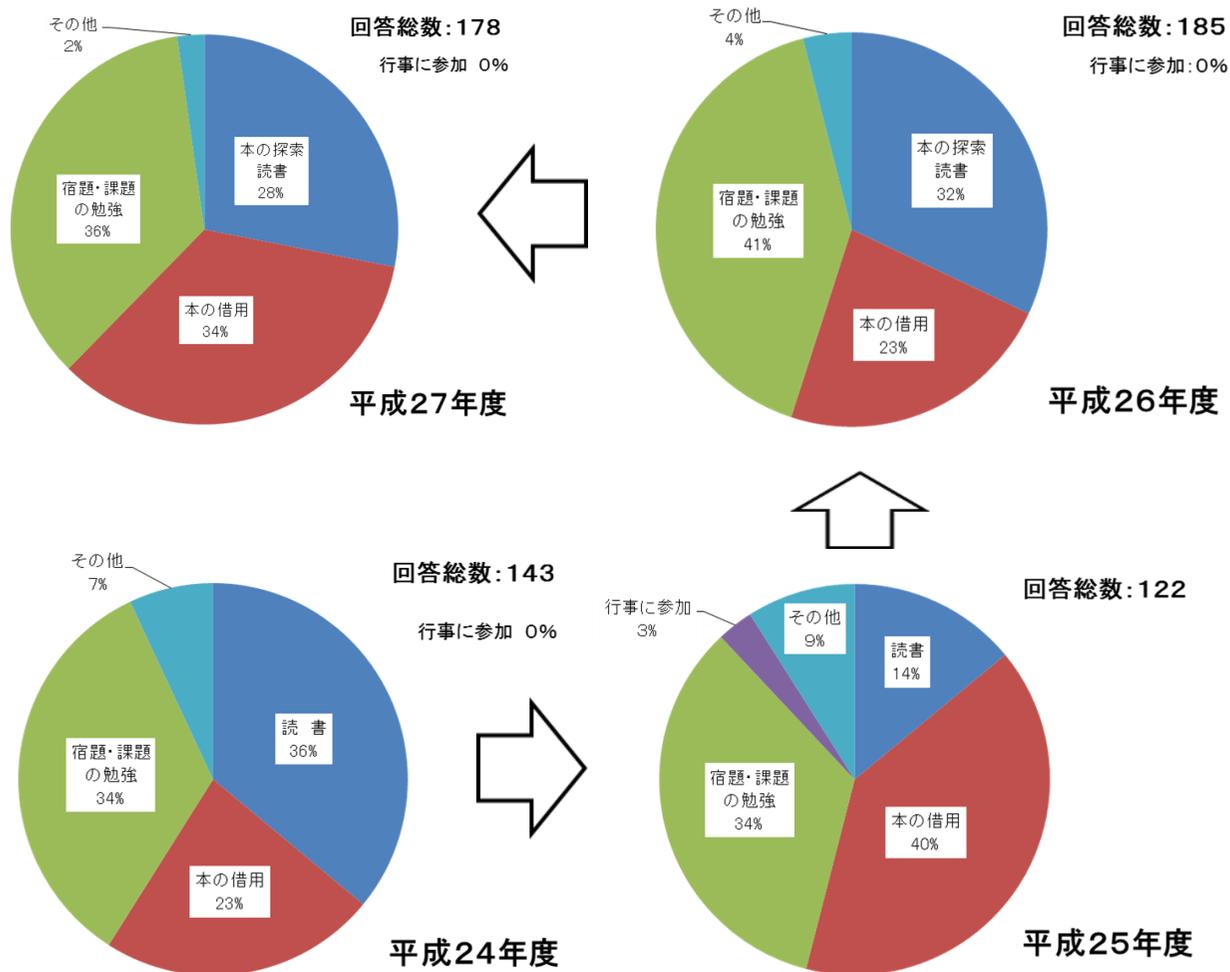
探索・読書は回答の変動幅が大きいものの、巨視的には上昇傾向がうかがえる。

借用は平成26年度の下降から上昇に転じたものの、平成24年度の数値まで回復しておらず、上昇と判断するには材料が少ない。

両回答の合計は最少でも平成26年度の73%、最大では平成27年度の81%と、全回答の約3/4を占めている。

宿題・課題は20%前後の変動で推移するものの、小学校2年生の回答比率を上回っている。調べ学習など、学校の図書館利用が進んでいる表れとみることもできるだろう。

3) 中学校2年生



「本の探索・読書(青)」は、36%(H24)、14%(H25)、32%(H26)、28%(H27)と、平成25年度に10%台前半に下降、平成27年度に30%近くまで回復したものの、平成24年度の数値には届かない。

「本の借用(赤)」は、23%(H24)、40%(H25)、23%(H26)、34%(H27)と、平成25年度に40%に達したものの、平成26年度には平成24年度の数値まで下降。平成27年度には再上昇し30%台前半に達している。

「宿題・課題の勉強(緑)」は、34%(H24)、34%(H25)、41%(H26)、36%(H27)と、平成26年度のみ40%台に達したが、他年度は35%前後で推移。平成27年度に下降したが、その差は2%にとどまる。

「行事に参加(紫)」は、0%(H24)、3%(H25)、0%(H26)、0%(H27)と、平成25年度以外は回答がなかった。

読書および借用の回答の合計が50~60%台にとどまる一方、宿題・課題が30%以上を占めるなど、小学生時代とは異なる様相を示す。

なお、平成26年度調査結果報告書に掲載した平成24年度の調査結果グラフに誤りがあり、今回、当時の調査結果から改めて作成しなおしたものを掲載している。今回の掲載内容が優先するのでご了承願いたい。

図39 「図書館へはどんな時に行きますか？(複数回答)」に対する中学校2年生の回答様相

問10 問9で「行かない・行ったことがない」と答えた方にうかがいます。それはなぜですか？（複数回答）

(1) 平成27年度の回答様相

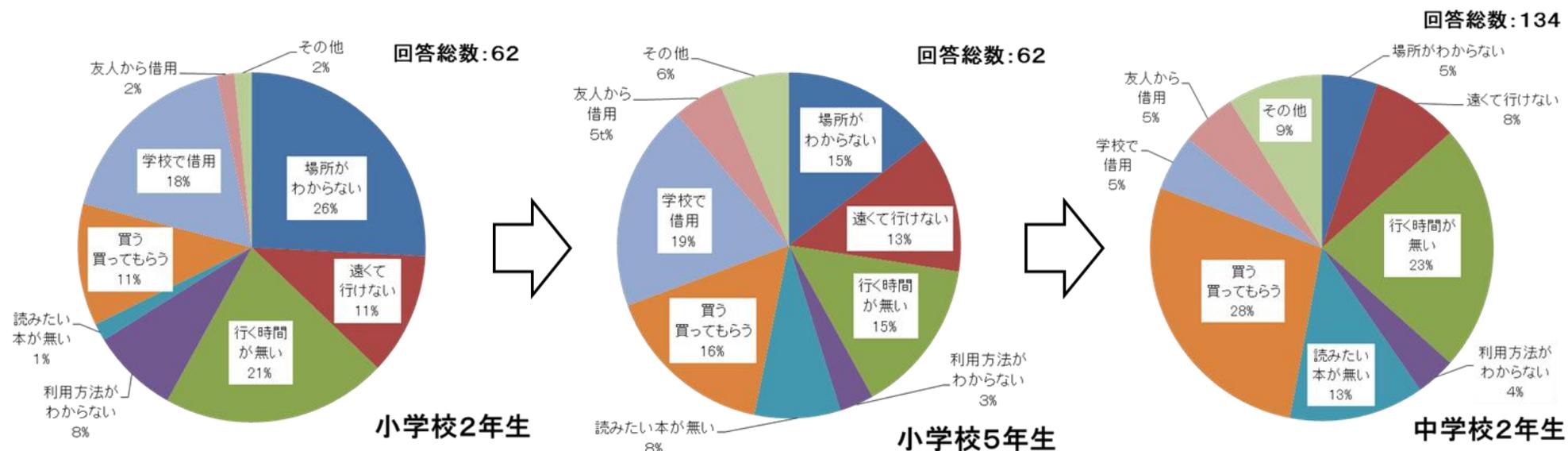


図40 「『行かない・行ったことがない』のはなぜですか(複数回答)」に対する平成27年度の回答様相

「場所がわからない(青)」は、26%(小2)、15%(小5)、5%(中2)と、学年とともにほぼ10%幅で下降する。

「遠くて行けない(赤)」は、11%(小2)、13%(小5)、8%(中2)と、小学校2年生、同5年生は10%台前半で推移し、中学校2年生で10%を切る。

「行く時間がない(緑)」は、21%(小2)、15%(小5)、23%(中2)と、小学校5年生で10%台に下降するが、小学校2年生、中学校2年生は20%台前半で近似値を示す。

「利用方法がわからない(紫)」は、8%(小2)、3%(小5)、4%(中2)と、小学校5年生・中学校2年生では、小学校2年生の約1/2まで下降する。

「読みたい本がない(青緑)」は、1%(小2)、8%(小5)、13%(中2)と、学年とともに上昇、中学校2年生では10%台前半に達する。

「買う、買ってもらう(橙)」は、11%(小2)、16%(小5)、28%(中2)と、学年とともに上昇、中学校2年生では30%に迫る。

「学校で借用(空)」は、18%(小2)、19%(小5)、5%(中2)と、小学校2年生、同5年生は10%台後半で推移するが、中学校2年生ではそれまでの約1/4に下降する。

「友人から借用(桃)」は、2%(小2)、5%(小5)、5%(中2)と、小学校5年生以降は同2年生の倍以上の上昇だが、10%未満の範囲における変動である。

(2) 平成24年度からの回答様相の変遷

1) 小学校2年生

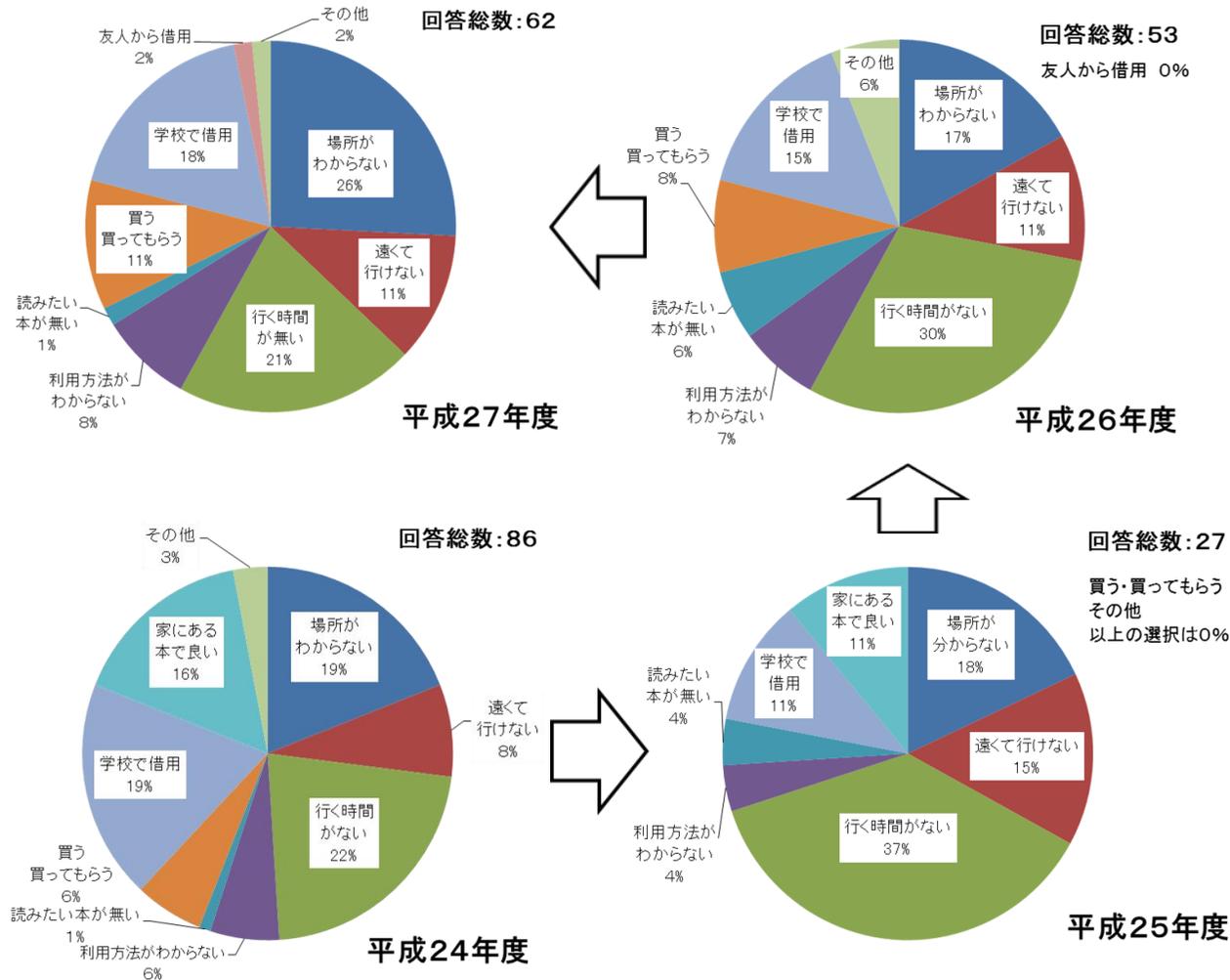


図 41 「『行かない・行ったことがない』のはなぜですか(複数回答)」に対する小学校2年生の回答様相

「場所がわからない(青)」は、19% (H24)、18% (H25)、17% (H26)、26% (H27) と、20%に迫る数値で変動していたが、平成27年度に20%を突破した。

「遠くて行けない(赤)」は、8% (H24)、15% (H25)、11% (H26)、11% (H27) と、平成25年度に10%半ばに達し、平成26年度から下降したが10%台を保っている。

「行く時間がない(緑)」は、22% (H24)、37% (H25)、30% (H26)、21% (H27) と、平成25年度に40%に迫った後に下降、平成27年度も下降し最小値を示す。

「利用方法がわからない(紫)」は6% (H24)、4% (H25)、7% (H26)、8% (H27) と10%未満の範囲内で変動、平成25年度に最小値を示して以降は上昇する。

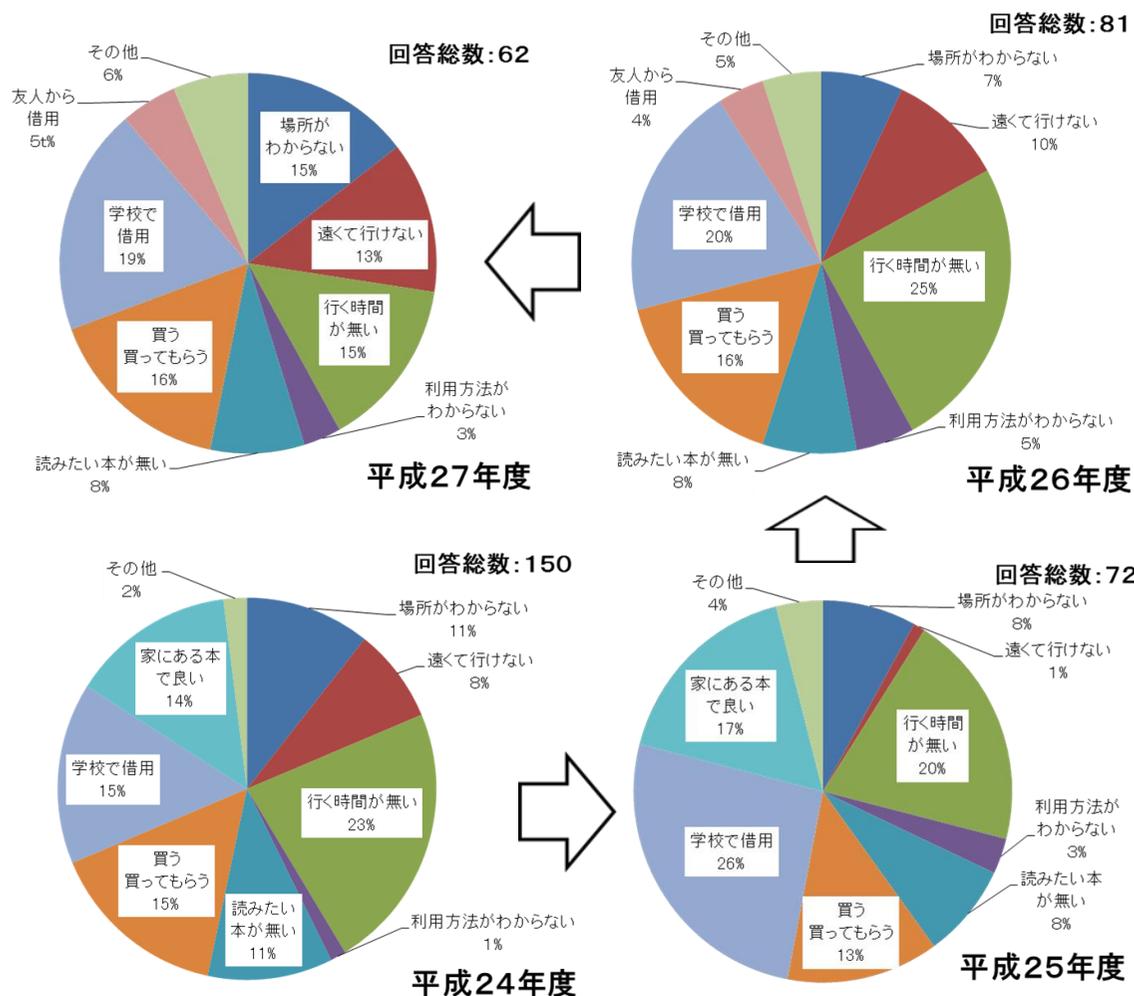
「読みたい本がない(青緑)」は1% (H24)、4% (H25)、6% (H26)、1% (H27) と、平成26年度までは上昇。平成27年度は平成24年度と同様、最小値まで下降。

「買う・買ってもらおう(橙)」は6% (H24)、0% (H25)、8% (H26)、11% (H27) と、平成25年度に回答が消滅したものの、その後は上昇。平成27年度には10%を突破、最大値を示す。

「学校で借用(空)」は19% (H24)、11% (H25)、5% (H26)、18% (H27) と、平成26年度まで下降したものが平成27年度に上昇に転じ、平成24年度の様相まで回復する。

「友人から借用(桃)」は0% (H26)、2% (H27) と上昇する(平成24年度、同25年度は選択肢がなかった)。

2) 小学校5年生



「場所がわからない(青)」は、11% (H24)、8% (H25)、7% (H26)、15% (H27)と平成26年度まで下降の後上昇に転じ、平成27年度は最大値を示す。

「速くて行けない(赤)」は、8% (H24)、1% (H25)、10% (H26)、13% (H27)と、平成25年度に1%に下降の後、平成26年度に10%に上昇。平成27年度はさらに上昇し、最大値を示す。

「行く時間が無い(緑)」は、23% (H24)、20% (H25)、25% (H26)、15% (H27)と、平成26年度まで20%台で推移、平成27年度に10%台に下降する。

「利用方法がわからない(紫)」は1% (H24)、3% (H25)、5% (H26)、3% (H27)と、平成26年度まで上昇、平成27年度には下降したが平成25年度の水準にとどまっている。

「読みたい本が無い(青緑)」は11% (H24)、8% (H25)、8% (H26)、8% (H27)と、平成25年度に10%を切った後は変化ない。10%前後で推移し、全ての調査年度の差は3%である。

「買う・買ってもらう(橙)」は15% (H24)、13% (H25)、16% (H26)、16% (H27)と、平成25年度の下降を経て平成26年度に上昇、最大値を示すが、全ての調査年度の差は3%以内である。

「学校で借用(空)」は15% (H24)、26% (H25)、20% (H26)、19% (H27)と、平成25年度に上昇し20%台に乗るが、平成26年度より下降、平成27年度は20%を切る。

「友人から借用(桃)」は4% (H26)、5% (H27)と上昇する(平成24年度、同25年度は選択肢がなかった)。

図42 「『行かない・行ったことがない』のはなぜですか(複数回答)」に対する小学校5年生の回答様相

3) 中学校2年生

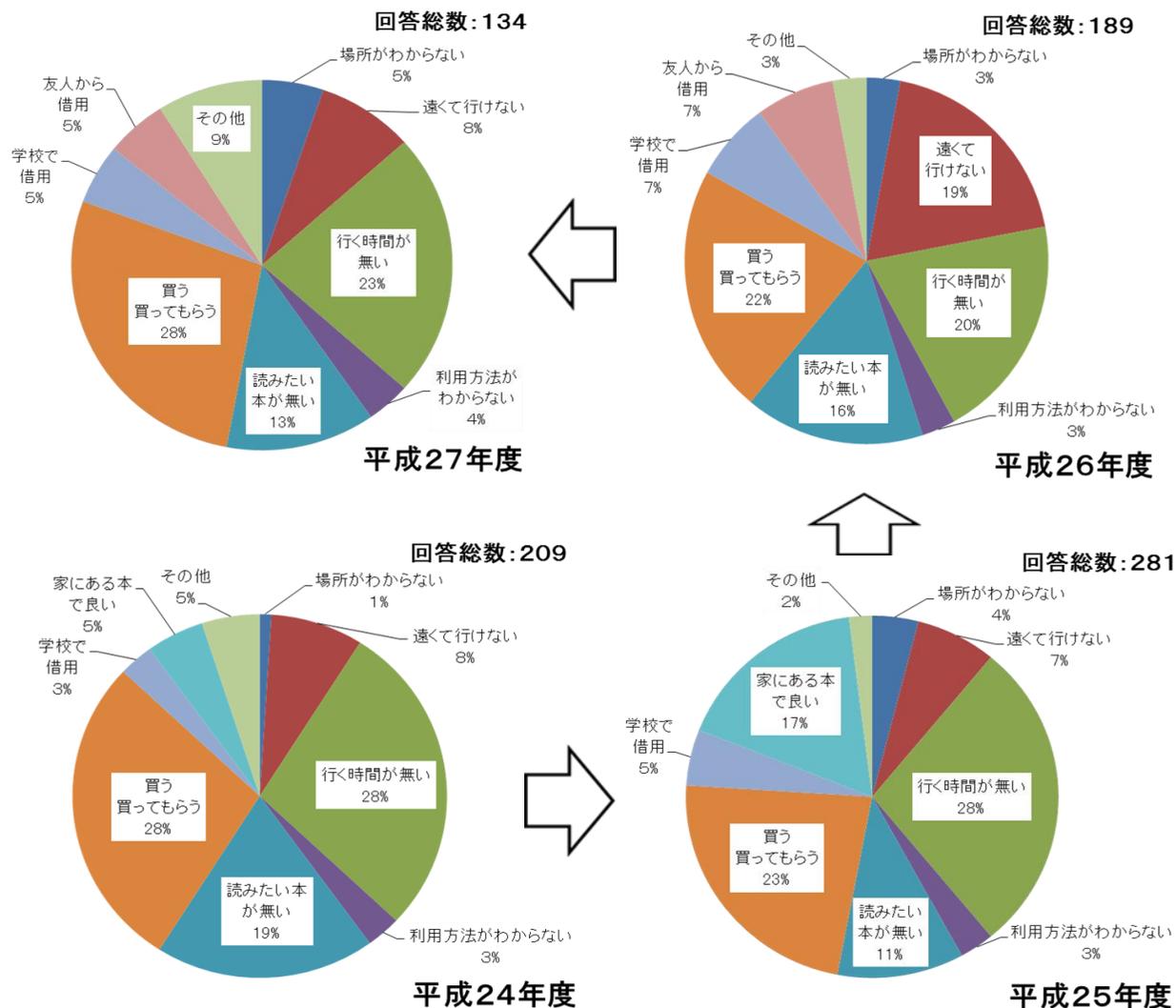


図 43 「『行かない・行ったことがない』のはなぜですか(複数回答)」に対する中学校2年生の回答様相

「場所がわからない(青)」は、1% (H24)、4% (H25)、3% (H26)、6% (H27)と10%未満の範囲で推移するが、平成27年度は上昇し最大値を示す。

「遠くて行けない(赤)」は、8% (H24)、7% (H25)、19% (H26)、8% (H27)と、平成26年度のみ20%に迫ったものの、他年度は7~8%と殆ど変化しない。

「行く時間が無い(緑)」は、28% (H24)、28% (H25)、20% (H26)、23% (H27)と20%台で変動、平成26年度に20%後半から前半に下降する。平成27年度は上昇するがその差は3%にとどまる。

「利用方法がわからない(紫)」は3% (H24)、3% (H25)、3% (H26)、4% (H27)と平成27年度に上昇するものの、その差は1%にとどまる。

「読みたい本が無い(青緑)」は19% (H24)、11% (H25)、16% (H26)、13% (H27)と10%台と変動、平成27年度は下降傾向である。

「買う・買ってもらう(橙)」は28% (H24)、23% (H25)、22% (H26)、28% (H27)と、20%台で推移。平成27年度は平成24年度の様相に復し、最大値を示す。

「学校で借用(空)」は3% (H24)、5% (H25)、7% (H26)、5% (H27)と、10%未満の範囲で推移。平成26年度まで上昇したものの、平成27年度には下降する。

「友人から借用(桃)」は7% (H26)、5% (H27)と下降(平成24年度、同25年度は選択肢がなかった)。

Ⅱ アンケート結果から見える子どもたちと読書の関係

平成 27 年度までに実施したアンケート調査から見えてきた、子どもたちと読書の関係について考えてみたい。

問 1 では、全学年的に読書を積極的に「好き」とする回答が減少する傾向を示している（P 4～P 10）。しかし、その対極の回答である「嫌い」の増加に直結する訳ではなく、「どちらかといえば好き」、あるいは「どちらかといえば嫌い」という、中間的な回答に移行しているのが現状である。

問 2 では、小学校 2 年生の調査結果では読書冊数の増加傾向とともに、「0 冊」の回答が無かったことは特筆すべき事象である（P 8）。これは平成 24 年度の調査開始以来、初めてのことである。幼稚園・保育園時代、小学校における図書教育の賜物というべきであろう。しかし小学校 5 年生になると読書冊数の減少傾向が少しずつ現れ（P 9）、中学校 2 年生になると、減少傾向が明確に認められるようになる（P10）。

問 3 の回答様相から、「0 冊」の回答者の中には読書が「好き」「どちらかといえば好き」とする回答者も含まれていることも判明しているため、この傾向が「読書離れ」に直結するものではない事はこれまでも指摘してきたとおりである。しかし、0 冊の理由が「時間がなく読めなかった」とする従来の漠然としたものから、他の娯楽手段や交友関係などの具体的な事象に置き換わりつつあり、子どもたちにとって娯楽としての読書の地位が低下していることを示唆していると考えられる。

さらに、平成 24 年度には学業に対する読書、という娯楽より位置づけであったものが、平成 26 年度には、ゲーム・パソコンなどに対する読書、という学業より位置づけに転移する兆候が既に現れている。子どもたちの意識下では、読書は娯楽ではなく、学業に連なるものとして捉えられている状況が浮かんできている。

問 4 の回答様相を観ると、平成 26 年度には増加傾向にあった「友人の協力」が全体的に減少する（P 16～P 18）。

さらに問 5 の回答様相を観ると、小学校段階では「友人の協力」の占める割合にほとんど変化ないが、中学校 2 年生になると減少する（P 20～P 22）。

両問の回答様相からは、子どもたちが自分の好みの本を、自力で探して読むという図式が明確化する。これはこれまでの調査結果を追認するものである。しかし今回の調査において、友人が関与する割合が低下していることを考え合わせると、読書が、交友の中では話題に上らなくなっている可能性もある。家族の協力を得るとする回答は一定数を保っているため、これが友人の減少を補っているとも言えなくもないが、あくまでも家庭内における行動の域を出ない。本の探索は、可能な限りは自分の収集した情報と感性に従い、手に余る場合には家族という、最も狭い人間関係の中で対応する傾向が強くなっていることがわかる。

情報収集から選書、購入まで、自分の選択を最優先する傾向が強まりつつある点はこれまでの調査結果のとおりだが、子どもたちの読書活動がさらに内向化し、子どもたちの読む本の分野・範囲が極めて限定的になる危うさも示唆している。

問 6 において就学前の読み聞かせ経験を尋ねたところ、回答者の 9 割前後の子どもたちが読み聞かせ経験している（P 23）。

さらに問 7 に対する回答によって、読み手は母親と保育園・幼稚園の先生が全体の 6 割以上を占め、両者が中心となって子どもたちの読書体験の積み重ねを支えていることが明らかとなっている（P 27）。各園の読書活動が、子どもたち自身が本に触る、観る、そして自分で読む体験の始まりに大きく影響していることがわかる。

問2の集計において、平成27年度における小学校2年生の読書冊数の調査結果から「0冊」の回答が消えたことはその表れであろう。読み聞かせの経験がそのまま小学校における読書活動の出発点となっており、家庭や保育園・幼稚園の担当者の活動がこの成果を導き出したということもできるだろう。

しかしここでは、読み聞かせの経験率は依然として高率ではあるものの、全学年において「いいえ」の回答率が10%前後を占めていること、また小学校2年生では、その回答率に増加の兆候が見えることにも目を向けたい。この様相から導かれるのは、家庭に読み聞かせの環境がなかった、あるいは園などの読み聞かせ環境のある施設にいなかったなど、読書と隔離した環境にあった児童が一定数存在している可能性である。

この問題との関連を想起させたのが問7の調査結果において、これまで読み聞かせの最大の担い手であった母親の比率に下降の傾向が見えたことである。無論、現在でも母親が読み聞かせの最大の担い手であることは明らかである。しかし近年の景気後退に伴う母親のパート勤務の増加などにより、母親自身の家庭における時間的余裕や精神的なゆとりが失われつつある可能性は否定できない。これに対し、父親や姉・兄、祖父母など他の家族による読み聞かせには殆ど変化が見られず、母親の減少を補う存在にまでは至っていない。

これらの問題に直面しているのは小学校である。現在、市内小学校では積極的な図書教育活動が行われており、全生徒に図書と接する機会と、これを活用する学習機会を提供している。特に低学年に対する学習活動はこのような児童の受け皿として重要な意味を持っている。小学校における図書教育の重要性は今度さらに増加するものと思われる。

しかしながら問5に対する平成27年度の調査結果を観てみると、本を学校や図書館で借用するとした回答はともに減少傾向を示しており、子どもたちの成長とともに図書館施設の利用度が減少、その傾向は中学校進学とともに目立って強まっていることが示唆されている(P19)。図書教育の枠を離れた部分で観ると、図書館蔵書と彼らが読みたい本の間に距離が生じており、学校図書館もその空隙を埋めるには至っていないことがわかる。同じ問5の中で「買って読む」「友人から借用」などの回答が増加していることも、このことを逆説的に示している。この点は平成26年度の調査結果においても指摘しており、今回の調査結果もそのことを補完するものであろう。

その一方、問9の調査結果に観えるとおり、図書館の利用目的として宿題・課題の勉強が増加していることから、子どもたちに「図書館＝勉強場所」という認識が広まり、且つその認識が低年齢化しつつことがわかる。保護者自身が図書館を勉強に使った経験を持つ世代になっていることも大きいのだろう。この面においては、むしろ図書館利用者が増加する傾向が伺える(P35～P38)。

子どもたちは、調べ学習や自由研究などの際に、参考資料として所蔵図書を利用する機会があるものの、高年齢化と共に、勉強道具は持ち込まれた「教科書と参考書とノート」のセットに固定化し、図書館蔵書の利用率が低下してきていることは否定できない。

いずれの現象も、子どもたちに、いかに図書館の蔵書を利用してもらうか、という問いに対する答えを、我々図書行政に携わる者に求めるものである。

ただ、この結果を受けて「図書館に子どもたちが好む本を増やせばよい」と結論するのは安易且つ短絡的である。

調査結果から観ても、本の選択や入手の過程においては、子どもたちが好む本は購入か、友人からの借用で確保していることが明らかであり、図書館がこれらの本を揃えたとしても、現在の本の確保方法の回答比率に変動を与えるに過ぎない。

本来、図書館は人の生涯に寄り添う「知の存在」である。図書館蔵書には、子どもたちのこれからの成長、そして成人後の人生の醸成にも欠くことのできない本が数多く存在する。また、子ども時代に広い分野の本に接することは極めて重要であり、このことは小・中学校における読書活動においても腐心している点である。我々市立図書館の責務もその点にあり、広大な知識の宝庫として子どもたちに接していく必要がある、ということは忘れてはならない。

子どもたちの読みたい本の選書に配慮することは重要だが、これと同時に、子どもたちにとっては未知の書籍を所蔵・提供する図書館のあり方を知らせていくことも必要である。

平成 26 年度調査結果報告書に掲載した、問 9-(2)-3) (P39) に掲載している、中学校 2 年生に関する平成 24 年度の調査結果グラフに誤りがあったため、今回、当時の調査結果から改めて作成しなおしたものを掲載した。本掲載を以て訂正としたい。

また問 5 において、平成 24 年度設問に設けた選択肢「家にある本を読む（青緑）」と同様の回答が平成 26 年度、同 27 年度の本回答の自由記載に記述されている。それぞれが全回答に占める割合に大きな差があることを考えると、選択肢として存在すれば選択するものの、その内容は他の選択肢に含まれる場合も多い可能性を示している。設問した事務局側の今後の反省点として挙げておきたい。

最後になりましたが、今回のアンケート調査の実施に当たってご協力いただいた、市内小中学校関係者の皆様に感謝申し上げます。本来ならばここにご尊名を列挙すべきところではありますが、紙面の都合から割愛させていただきました。